山形県教育センター

研究報告書第46号
L2－01

家庭におけるしつけに関する研究

1987・3

山形県教育センター

（資料整理カード　L２－01）

研究報告書第46号（昭和62年３月刊）

家庭におけるしつけに関する研究

山形県教育センター

目　　次

第１章　調査研究の目的と方法
　第１節　調査研究の目的
　第２節　調査の内容と方法
　第３節　調査対象者の属性

第２章　家庭における母親のしつけに関する意識 —— 調査結果の分析と考察 ——
　第１節　しつけの内容
　第２節　しつけの方法
　第３節　母親の生活と育児・しつけ
　第４節　子どもへの期待・家庭の役割

第３章　調査結果のまとめと今後の課題
　第１節　調査結果のまとめ
　第２節　今後の課題

資料編
　1.「家庭のしつけに関する調査」集計結果

調　査　研　究　の　概　要

1.　調査研究のねらい

家庭は子どもの成長発達にとって基礎的な教育の役割を果たしてきた。しかし，社会の変化にともなって家庭のあり方も変化し，家庭が本来もっていた教育機能が衰退してきたといわれている。家庭教育のあり方を究明するために，家庭におけるしつけに焦点をあて，しつけに関する母親の意識を明らかにするとともに，しつけの問題点と改善の視点を探る。

2.　調査の対象と方法

(1)　調査の対象

幼稚園児をもつ母親と小学校３年生の子どもをもつ母親　1137名（６幼稚園・28小学校）

(2)　調査の方法

質問紙を幼稚園及び小学校を通じて対象者に配布し，記入済みの質問紙を返送してもらう方法

(3)　調査項目

しつけの内容，しつけの方法，母親の生活と育児・しつけ，子どもへの期待・家庭の役割

3.　調査結果のまとめ

(1)　子どもの実態をみた場合，幼稚園児，小学校3年生ともに社会的慣習よりも基本的生活習慣が身についていないと考えている母親が多かった。また，しつけに対する親の関心についても，母親・父親ともに基本的生活習慣の形成にあまり関心をもっていない。

(2)　しつけの担当者は主として母親にあった。しかし，母親以外の家族員（父親・祖父母）もしつけの分担者としての役割を果たしていた。世間でよくいわれるような「父親不在」の現象は見うけられなかった。しかし，母親からみた父親像・母親像は「厳母甘父」であり，夫婦の役割分担が明確になっているとはいえない。

(3)　しつけの方法では，ほめる方が効果があると考えているが，実際の場面では，よその子や兄弟などをひき合いに出して叱ったり，時には体罰も必要だと考えている。しかり方では，「子どもが悪いことをしたことに気づかせて叱る」とほとんどの母親が答えている反面，その時の自分の感情によって子どもに対応する母親がかなりみられた。生活上でイライラ感を抱く母親も多かった。

(4)　親の期待する子ども像は，「やさしくて思いやりのある子」，「善悪の判断をきちんとできる子」であった。家庭の教育観が知育偏重となっているといわれている現代社会において，本調査では，母親の中に知育偏重がみられず，徳育面ですぐれた子どもに育って欲しいと望む傾向がみられた。

4.　今後の課題

調査の結果を分析すると，次のような課題に取り組むことが必要であると考える。第１は，子どもの発達段階に応じたしつけのあり方の研究，第２には，しつけにかかわる夫婦の役割分担に関する研究，第３には，しつけの受け手である子どもたちの行動や意識にかかわる研究等である。

親としての義務や責任を果たしていくために，親自身が自らを高めていく姿勢が必要になる。幼稚園や学校，社会教育等は，親の学習に対する援助を図るための学習機会を設定していくことが期待される。ともかく，子どものしつけや教育について地域全体で話し合える体制づくりが，私たち一人一人にとって最も重要な課題であることを認識していかなければならない。

山形県教育センター

は　し　が　き

「このごろの子どもはしつけがなっていない」とよく言われる。家庭や学校で，あるいは地域社会で，子どもたちの生活状況や生活行動を見たり聞いたりしてのことばであろう。さらに，今日の青少年の非社会的・反社会的な問題行動の多くは，もとをただせば幼児期からのしつけがしっかりとなされていなかったから出てくるのだと指摘する声もある。家庭における子どもの養育やしつけ，さらには家庭教育に本来の機能や役割を果たして欲しいという期待感がその裏にこめられているのかも知れない。

子どものしつけや教育にかかわる社会情勢・家庭環境は近年そのきびしさを増している。大量物資消費の社会において大人のものの見方・考え方が多様化し，家庭にあっては核家族化，共稼ぎ家庭の増大，子どもの身体の早熟化が進み，子どものしつけや教育が改めて問い直されてきている。家庭において子どものしつけの担い手となっている母親からはいろいろ子どものことについての悩みが出されている。

当教育センターでは，このような家庭におけるしつけについての問題状況を重視し，人間教育あるいは生涯教育の基盤となる家庭教育の重要性にかんがみ，「家庭における子どものしつけ」に焦点をあて，しつけについての母親の意識調査をもとにして家庭におけるしつけの実態と問題点を探ることにした。

この研究により本県における家庭のしつけの実態と問題点について概括的な把握ができたと考えているが，家庭を中心としたしつけについての問題解決への参考として本研究報告書を活用していただければ幸いである。

終わりに，本調査を実施するにあたりご協力をいただいた関係幼稚園・学校並びに関係者の方々に深く感謝申しあげます。

昭和62年３月

山形県教育センター所長

金　森　　武

家庭におけるしつけに関する研究

目　　次

第１章　調査研究の目的と方法 …… 1
　第１節　調査研究の目的 …… 1
　　1.　調査研究のねらい …… 1
　　2.　調査研究の趣旨 …… 1
　第２節　調査の内容と方法 …… 2
　　1.　調査項目の設定と質問紙の作成 …… 2
　　2.　調査の対象と方法 …… 3
　第３節　対象者等の属性 …… 3
第２章　家庭における母親のしつけに関する意識 ― 調査結果の分析と考察 ― …… 5
　第１節　しつけの内容 …… 5
　　1.　子どもの基本的生活習慣・社会的慣習の習得状況 …… 5
　　2.　しつけに関する両親の関心 …… 6
　　3.　しつけの担い手 …… 7
　第２節　しつけの方法 …… 8
　　1.　しつけの方法 …… 8
　　2.　しつけと賞罰 …… 11
　　3.　しかり方 …… 11
　　4.　体　罰 …… 12
　第３節　母親の生活と育児・しつけ …… 13
　　1.　母親の生活と育児 …… 13
　　2.　母親と子どもの世話 …… 17
　　3.　子どもにとっての親のしつけ …… 18
　　4.　育児やしつけの相談 …… 18
　　5.　しつけと悩み …… 19
　第４節　子どもへの期待・家庭の役割 …… 21
　　1.　子どもへの期待 …… 21
　　2.　家庭の役割 …… 22
第３章　調査結果のまとめと今後の課題 …… 27
　第１節　調査結果のまとめ …… 27
　第２節　問題点と今後の課題 …… 30
資料　「家庭のしつけに関する調査」の集計結果 …… 32

研　究　担　当　者

指導主事	小田島	健	男
〃	黒川	辰	治
〃	遠藤	正	友
〃	佐藤		満

第１章　調査研究の目的と方法

第１節　調査研究の目的

１　調査研究のねらい

子どもの人間形成の上で大きな役割を果たす家庭教育のあり方を究明するために，家庭におけるしつけに焦点をあて，母親のしつけに関する意識を明らかにするとともに，家庭におけるしつけの問題点と改善の視点を探る。

２　調査研究の趣旨

人は家庭の中で生まれ，家庭の中で保護され養育されることによって初めて人間として成長する。子どもにとって，家庭は初めて出会う社会であり，親や兄弟姉妹など家庭内の人間との生活を通して成長していく生活の場でもある。このように子どもの成長にとって重要な役割を果たしてきた家庭が，急激な社会の変化にともなってそのあり方も大きく変化している。家庭のもつ教育的な機能が衰退していると指摘されている現代にあって，家庭の教育機能の回復を図ることは社会の重要な課題として取り上げられ，いろいろな方面で検討されてきている。例えば，臨時教育審議会では，家庭教育の現状と問題点として，次のようにまとめている。

① 家族形態の変化により，世代間交流および育児知識の伝承が不十分であること。

② 兄弟姉妹数の減少により子ども同士の異年齢間の切磋琢磨が不十分であるとともに，親が過保護，過干渉になりがちなこと。

③ 女性の社会進出に応じた育児と職業生活を両立させるための条件整備が不十分であること。

④ 父親の存在感や育児・教育への参加意識が希薄になっていること。

⑤ 社会が経済的に豊かになったことにより，文化的生活を志向し，価値観が多様化する一方，親の育児不安・放任等が生じていること。

⑥ 学歴獲得志向の風潮と相まって，家庭の教育観が学歴偏重，知識偏重，偏差値偏重となっていること。

⑦ 近代文明社会に伴うひずみとして，心豊かに生き，日々の生活を紡ぐという家庭生活の本来の意義が軽視されてきたこと。

以上により，豊かな情操を育て，基本的なしつけを行うことなどの家庭教育の役割が十分に果たされていず，このことは我が国の将来にとってゆゆしき問題である。

「審議経過の概要（その３）」（昭和61年１月22日）

今日の青少年の意識や行動について，無気力で自発性が欠けていたり，思いやりや責任感，社会連帯感が希薄であるなどが各種の調査等で報告されている。また，登校拒否，青少年非行，いじめなど問題行動も増加の傾向を示している。一般的にいえば，今日の青少年は物質的環境に恵まれているほどには精神的に安定した環境の中で生活しているとはいい難い状況にあるといえよう。こういう社会背景の下で，不安定な状況にあるのは単に青少年のみならず，子どものことで悩み，対処する方向を見失ってい

る親も決して少なくないと思われる。

家庭教育は，親が子に対して行う教育であり，子どもの成長発達にとって基礎的な教育の役割を果たすものである。いいかえれば，親が子どもを一人前の社会人に育てあげようとする教育的な営みである。しかしながら，親の愛情を基本とする基礎的な教育であるだけに，時には，外部に対して閉鎖的になったり，甘えに流されやすい傾向をもっている。特に，最近の核家族化のすう勢は親の過保護，過干渉傾向を強めており，子どもの自主性，社会性や実践力の発達を妨げるきらいさえあると考えられる。しつけに関していえば，しつけの内容や方法，方針などは個々の親や家族によって違いがあるのは事実であるが，価値感が多様化している現在はしつけについても混乱がみられ，その回復が強く叫ばれているといっても過言ではない。

そこで，当センターでは，子どもの人間形成に重要な役割を果たす家庭の教育機能の回復を念頭におきながらも，当面，家庭におけるしつけの問題に焦点をあて，しつけの実態としつけに関する母親の意識を明らかにし，家庭におけるしつけの問題点と改善の視点を探ることが必要であると考えた。

第２節　調査の内容と方法

１　調査項目の設定と質問紙の作成

しつけに関する母親の意識を明らかにするために，次のような調査項目を設定した。

① しつけの内容
- ア．子どもの基本的生活習慣・社会的慣習の習得状況
- イ．母親が関心をもつしつけの内容
- ウ．父親がかかわっているしつけの内容
- エ．しつけの担い手

② しつけの方法
- ア．しつけの方法で大事なもの
- イ．しつけと賞罰
- ウ．しかり方
- エ．体　罰

③ 母親の生活と育児・しつけ
- ア．母親の生活と育児
  - ㋐ 母親の生活不安・育児不安
  - ㋑ 母親の対人関係
  - ㋒ 子どもとの密着度
  - ㋓ しつけで困っていること
  - ㋔ 子どもに対する親の態度
- イ．育児・しつけの相談相手
  - ㋐ 育児・しつけの相談相手
  - ㋑ しつけに関する夫婦のかかわり

④ 子どもへの期待と家庭の役割
- ア．子どもへの期待
- イ．家庭の役割

上記の調査項目を土台にして，別紙のとおりの質問紙を作成した。（質問数25，回答記入数90）

なお，質問紙の回答形式は選択回答形式をとり，その中でも単一選択法を採用した。但し，質問22－1については２肢選択である。

２　調査の対象と方法

(1) 調査の対象者の選定

この調査の対象者を幼稚園児及び小学校３年生の母親とした。県内の幼稚園児，小学校３年生の母親を母集団として必要な標本数を算出した結果，それぞれ604名であった。地域的なバランスを考慮に入れて，幼稚園を６園，小学校を28校抽出した。

(2) 調査の方法

調査の方法としては，留置法を用いた。具体的には，抽出した各幼稚園及び小学校に依頼して質問紙を配布し，園児，児童を通して家に持ち帰ってもらい，母親に記入してもらう。記入した質問紙を再び，子どもを通して各機関に提出してもらい，それを一括回収した。

(3) 調査期間

昭和61年12月４日～12月15日

(4) 回収標本数

幼稚園関係は602標本，小学校関係は604標本で全回収標本数は1206である。回収票のうち，質問紙の記入者が母親以外のものと質問項目の半数以上が無記入のものとを除いた結果，有効標本数は1137となった。（幼稚園582，小学校555）

第３節　対象者等の属性

１　対象者の属性

本調査に回答した母親の属性を，年齢，職業，家族構成，子どもの数の４点から調査した。

(1) 年　齢

年齢別では，35～39才が47.2％ともっとも多く，ついで，30～34才が39.6％であり，30代の母親が全体の87％を占めていた。幼稚園児の母親と小学校３年生の母親をくらべてみると，幼稚園児の母親は30代前半に多く，小学校３年生の母親は30代後半に多かった。

表ａ　年　齢

	２０～２４才	２５～２９才	３０～３４才	３５～５９才	４０才以上	実人数
幼稚園	0.5％	１２.９％	４４.３％	３９.２％	3.1％	５８２人
小学校	－	1.6	３４.６	５５.７	8.1	５５５
計	0.3	7.4	３９.６	４７.２	5.5	1,1３７

(2) 職　業

表b　職　業

	定　職	パート	内　職	自　営	無　職	実人数
幼稚園	35.6％	4.1％	11.9％	14.9％	33.5％	582人
小学校	49.2	8.6	13.0	16.8	12.4	555
計	42.2	6.4	12.4	15.8	23.2	1,137

職業についていない母親は23.2％であり，全体の4分の3以上の母親は何らかの仕事に従事している。特に小学校3年生をもつ母親の9割弱が有職者であり，「パート」「自営」等をのぞいた「定職」についているものは全体の半数近くいた。

(3) 家族構成

表c　家族構成

	夫婦と子ども	夫婦・子・祖父母	夫婦・子・祖母又は祖父	母・子	その他	実人数
幼稚園	36.6％	35.1％	14.9％	－％	13.4％	582人
小学校	26.5	42.7	18.9	1.6	10.3	555
計	31.7	38.8	16.9	0.8	11.8	1,137

表cから祖父母の有無をみてみると，「祖父母が両方いる」家庭は38.9％，「どちらか片方だけいる」家庭は16.9％，「両方ともいない」家庭は31.7％である。核家族（夫婦と子どもの家族）は全体の3分の1にすぎなかった。

(4) 子どもの数

子どもの数は「2人」がもっとも多く57.8％，ついで「3人」が32.9％，「1人」と「4人以上」は5％前後にすぎない。「2人」，「3人」で全体の90％近くを占めている。

2　子どもの属性

質問紙をもち帰った子どもの属性を性・年齢・兄弟内の位置の三点から調べた。

(1) 性　別

表d

	男		女		計	
幼稚園	279人	47.9％	303人	52.1％	582人	100.0％
小学校	300	54.1	255	45.9	555	100.0
計	569	50.9	558	49.1	1,137	100.0

今回の調査では，はじめから男女の人数が同数になるように配慮しなかったので，園児と児童では男女構成に違いが少しでている。園児では女子が，児童では男子が若干多い。しかし，全体では男女の比率がほぼ同数になっている。

(2) 兄弟（姉妹）内の位置

「末っ子」が41.4％，「一番上」が38.5％，「中間子」14.8％，「ひとりっ子」5.3％である。「末っ子」と「一番上」がそれぞれ40％前後を占めており，前述の子どもの数の結果と相関していると思われる。

第2章　家庭における母親のしつけに関する意識

－調査結果の分析と考察－

第1節　しつけの内容

しつけは毎日の家庭生活の中で親が子どもに対して行われるものである。母親が子どもの実態をみた時に，子どもたちが基本的生活習慣や社会的慣習をどの程度身につけていると考えているのか，また，親自身が子どものしつけに関心をもっているかの二点について調べ，しつけの実態を探ろうとするものである。ただし，父親の関心については，母親が判断した父親の関心の有無であって，父親に直接たずねたものではない。しつけの内容は，基本的生活習慣と社会的慣習になれさせていくものの二つの領域に分けられるので，これをもとにして表1－1に示すような13の具体的項目を設定した。

項目	内　容	領　域
a	朝ひとりで起きる	基本的生活習慣
b	ひとりで服を着たり，ぬいだりする	〃
c	毎朝ひとりで洗顔や歯みがきをする	〃
d	ねる時刻になったらひとりで寝る	〃
e	行儀正しく食事をする	〃
f	交通ルールを守る	社会的慣習
g	公共のものを大切にする	〃
h	日常生活で正しくあいさつをする	〃
i	きまりや約束を守る	〃
j	身のまわりの物を整理・整とんする	基本的生活習慣
k	たずねられたことや相手の話の内容を受けて話す	社会的慣習
l	バスなどで空席がなければ立っている（座りたいといってさわがない）	〃
m	年下の子や弟・妹のめんどうをみる	〃

1　子どもの基本的生活習慣・社会的慣習の習得状況

基本的生活習慣・社会的慣習の習得状況について母親にたずねた結果は表1－2のとおりである。調査の段階では習得状況を4段階（「よくできる」「できる」「あまりできない」「できない」）で調べたが，ここでは，単純化して「できる」「できない」の2段階にまとめた。

13項目の中で，ほとんど完全に身につけている項目は，「ひとりで服を着たりぬいだりする」ことであった。この項目は基本的生活習慣といわれるものの一つであり，この年齢段階の子どもにとっては当然の結果であるといえよう。しかし，同じ基本的生活習慣の中に位置づけられる「朝ひとりで起きる」や「ねる時刻になったらひとりで寝る」，「行儀正しく食事をする」ことなどは，習得度が下位に位置しており，40％前後の母親は「できない」と判断している。逆に，「バスなどで空席がなければ立っている」「交通ルールを守る」「公共のものを大切にする」などについて，母親の90％以上が身についていると考えており，最近の交通事情により交通安全に対する指導の徹底が図られていることから，「交

通ルールを守る」ことが身についていると母親が判断していたことは推察できる。ただ，「公共のものを大切にする」や「バスで空席がなければ立っている」が高位に位置していたことは，予想外のことであった。

幼稚園児の母親と小学校３年生の母親を比較してみると，顕著な差がみられるのは，「整理整とん」（園児50.5％，小学校３年生36.8％）と「就寝」（園児53.1％，小学校３年生73.5％）の項目だけであった。「就寝」については子どもの成長にしたがって身についていると考えている母親が多くなっているが，「整理整とん」については成長と反比例していた。このことは，親の子どもに対する要求とその達成度の把握について園児と小学校３年生とでは必ずしも同じ水準から考えることはできないが，興味ある結果であった。最近，小学校において基本的生活習慣のしつけにかかわる指導を重視する傾向にあるのは，小学校３年生で「整理整とん」が36.8％，「起床」が55.2％しか身についていないという調査結果からもうなずけることである。

表１－２　子どもの習得状況

項　目	できる	できない
b　着　脱	98.7％	1.3％
l　耐　性	93.4	6.6
f　交通ルール	90.8	9.2
g　公　共　心	90.5	9.5
k　会　話	86.0	14.0
c　洗　顔	83.9	16.1
m　思いやり	82.6	17.4
i　約　束	79.4	20.6
h　あいさつ	79.1	20.9
e　食　事	64.1	35.9
d　就　寝	63.0	37.0
a　起　床	57.0	43.0
j　整理整とん	43.8	56.2

2　しつけに関する両親の関心

13項目に関する両親の関心を表にまとめたのが，表１－３である。

一般的な傾向として，母親は父親よりも子どものしつけに関心を持っている者が多い。しかし，関心を持っている項目については，母親・父親ともに同じような傾向を示しており，どちらかといえば，基本的な生活習慣にかかわる項目よりも社会的な慣習に関する項目に関心を持っていた。特に，基本的生活習慣にかかわる項目に関心を持っている父親は50％前後にすぎなかった。

子どもの習得状況と関連して考察してみると，「整理・整とん」「起床」「就寝」など子どもがあまり身についていないとする項目に対して，親の関心の順位が低いということに注目したい。

子どもが身についていないから，親がその項目のしつけに関心を持つと単純に図式化できるものではない。親はむしろ，子どもの実態とは関係なく社会的慣習にかかわる項目に強い関心をもっている。それは，子どもがすでに社会生活（集団生活）をおくっているという事実から，このような結果がでたと思われる。

表１－３　親の関心の有無

	母親		父親	
	はい	いいえ	はい	いいえ
a　起　床	⑬59.4	40.6	⑬40.9	57.3
b　着　脱	⑩74.7	25.3	⑪53.6	44.6
c　洗　顔	⑨76.5	23.5	⑨56.2	42.0
d　就　寝	⑫63.1	36.7	⑩54.1	44.1
e　食　事	⑤88.1	11.9	④77.0	21.1
f　交通ルール	①94.5	5.5	②81.8	16.4
g　公　共　心	④88.7	11.3	⑤74.4	23.8
h　あいさつ	③90.2	9.8	③78.4	19.8
i　約　束	②93.7	6.3	①84.2	14.0
j　整理整とん	⑥85.2	14.8	⑥70.2	28.0
k　会　話	⑧77.0	23.0	⑧62.0	36.2
l　耐　性	⑪67.0	33.0	⑫52.8	45.4
m　思いやり	⑦78.1	21.9	⑦66.8	31.4

(注)　○の数字は順位を示す

次に，幼稚園児の親と小学校３年生の親とを比較してみると，項目の順位に差違は認められなかったが，特徴的なことについて，次のように指摘することができる。

〈母親の関心〉

①　「着脱」について関心をもつ母親が子どもの成長にしたがって減少している。（園児79.9→小学校３年生69.2％）

②　関心が多くもたれている項目は「交通ルール」「あいさつ」「公共心」など社会的慣習に関する項目であり，子どもの成長にしたがって関心をもつ親は減少している。

③　関心があまりもたれていない項目は，「起床」，「洗顔」，「就寝」など基本的生活習慣にかかわる項目であり，子どもの成長にしたがって関心をもつ親が増加している。特に，「就寝」については大幅に増加している。（園児55.2％→小学校３年生71.4％）

表１－４　しつけに対する親の関心（園児・小３別）

	母親		父親	
	園児	小３	園児	小３
a　起　床	⑫55.7→	63.2⑬	⑬33.5→	48.7⑬
b　着　脱	⑦79.9←	69.2⑪	⑨54.6←	52.5⑫
c　洗　顔	⑨73.7→	79.5⑨	⑩52.6→	60.0⑩
d　就　寝	⑬55.2→	71.4⑩	⑫45.4→	63.3⑨
e　食　事	⑤90.7←	85.4⑥	④75.3→	78.9⑤
f　交通ルール	①96.9←	91.9②	②79.4→	84.3②
g　公　共　心	③91.2←	85.9⑤	⑤71.1→	77.9④
h　あいさつ	③91.2←	89.2③	③76.3→	80.6③
i　約　束	②93.8—	93.5①	①79.9→	88.7①
j　整理整とん	⑥84.0→	86.5④	④66.0→	74.6⑥
k　会　話	⑨73.7→	80.5⑧	⑧57.2→	67.0⑧
l　耐　性	⑪67.5←	66.5⑫	⑫49.5→	56.2⑪
m　思いやり	⑧75.3→	81.1⑦	⑦59.3→	74.6⑥

(注)　○の数字は順位　　単位は％

〈父親の関心〉

①　「着脱」についてだけ，子どもの成長にしたがって関心をもつ親がわずかであるが減少している。

②　「着脱」を除いた基本的生活習慣と社会的慣習に関する項目については，子どもの成長にしたがって関心をもつ親が増加している。

③　母親の場合と同じように，「就寝」に関心をもつ親が大幅に増加している。（園児45.4％→小学校３年生63.3％）

④　「思いやり」も園児59.3％から74.6％へと増加している。このことは，母親にみられない父親の特徴としてあげられる。

⑤　社会的慣習にかかわる項目は，先に述べたように父親の関心の高い項目であったが，母親の場合とは逆に，子どもの成長にしたがって関心をもつ父親がふえている。

3　しつけの担い手

子どものしつけについて，家庭内で誰がどのようにかかわっているかを表１－５に示した。「いつもかかわっている」が母親87.3％を占めているのに対して父親は18.5％であり，「時々かかわる」は母親12.4％に対して父親は70.4％と高くなっている。また，父親の中で，「かかわっていない」ものが9.5％もいた。

一方，祖父・祖母の場合は，「いつもかかわっている」が21.1％，「時々かかわる」が40.4

表１－５　しつけのかかわり　(％)

		いつもかかわる	時々かかわる	かかわっていない	非該当
母親	幼稚園	89.2	10.8	—	—
	小学校	85.4	14.1	0.5	—
	小計	87.3	12.4	0.3	—
父親	幼稚園	17.0	71.1	10.3	1.5
	小学校	20.0	69.7	8.6	1.6
	小計	18.5	70.4	9.5	1.6
祖母祖父	幼稚園	21.1	38.1	9.3	31.4
	小学校	21.1	42.7	8.6	27.6
	小計	21.1	40.4	9.0	29.5

%，「かかわっていない」が 9.0 %であった。

家庭におけるしつけの中心的担い手は圧倒的に母親であり，父親や祖父・祖母が時々かかわっているのが一般的傾向であった。祖父・祖母の中でしつけにかかわっていない者が父親と同じように10%くらいいた。この数値は祖父・祖母のいない核家族を含めての結果であるので，実際にはもっと高い数値を示すと思われる。祖父・祖母のいる家庭にかぎって，母親の職業との関連からさぐってみると，①内職をしている母親の家庭で祖父母が子どものしつけにかかわっていない，36.8%，②母親が無職の家庭では27.8%，③自営では13.5%，④定職では 6.8 %，⑤パートでは 0 %であった。母親が職業についていなかったり，ついていても家で働いている家庭ほど，祖父・祖母が子どものしつけにかかわっていないことがわかる。母親の職業と父親のしつけへのかかわりを調べてみたが，同じような傾向を示している。また，子どもが園児の場合と小学校 3 年生の場合とでは，しつけのかかわり方に大きな差がみられなかった。

第 2 節　しつけの方法

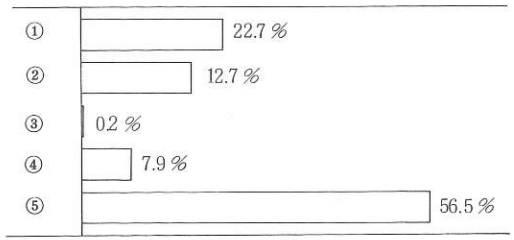
この節では，しつけの方法について検討した。全体を四つに分け，1.しつけの方法，2.しつけと賞罰 3.しかり方，4.体罰をとりあげ，各設問のうちから一つを選択させるようにした。

1　しつけの方法

(1)　しつけに対する考え方

母親のしつけに対する姿勢や考え方を知るために，「お子さんをしつける時，あなたは次のうちどれが一番大事だと思いますか」という質問に対して，次の五つから一つを選択させた。

図２－１　しつけに対する考え方



① よくいってきかせる
② いってもきかない時はたたいたりする
③ たたいたりする
④ 親が手本を示す
⑤ 親が手本を示しながら子どもに一緒にさせる

「1.よく言って聞かせる」「2.いっても聞かない時たたいたりする」「3.たたいたりする」「4.親が手本を示す」「5.親が手本を示しながら子どもに一緒にさせる」

全体の結果（図２－１）をみると，「親が手本を示しながら子どもに一緒にさせる」と答えた母親が56.5%，「いって聞かせる」が22.7%，「親が手本を示す」が 7.9 %であった。「手本を示す」と「手本を示しながら一緒にさせる」を合計すると64.4%にも及び，幼少年期におけるしつけは，手本を示すことが大切だと答えている。

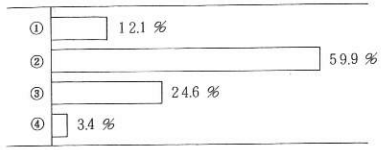
結果を幼稚園・小学校 3 年生別にみてみると，小学生の母親は，幼稚園児の母親より「手本を示し一緒にさせる」ことが少なくなり，その分「よくいってきかせる」，「いってもきかない時はたたいたりする」ことが多くなる傾向を示している。

しつけのききめの点で，言っても理解できない幼稚園児には「手本を示して一緒にさせる」ことが効果的であり，小学生には年令に応じた効果的なしつけが大事だとする母親が多くみられ，子どもの年令によって，しつけの対応はいろいろ異なっているようである。

(2)　しつけ方

次に実際の場面でどのようなしつけ方をしているのか，「お子さんが服を着ようとボタンをかけている途中で，うまくできなくあなたの所に来ました。その時あなたはどうしますか」という質問に「1.最後までやり通すよう励ます」，「2.やり方などの手本を示して自分ひとりでやり通すように努力させる」，「3.途中までがんばったのだからと考えて手伝ってやる」「4.親がしてあげる」の四つから一つを選択させた。

図２－２　具体的なしつけ方



① 最後までひとりでやす通すように励ます
② やり方などの手本を示して自分ひとりでするように努力させる
③ 途中までがんばってやったのだからと考えて手伝ってやる
④ 親がしてあげる

「小学生の母親は，お子さんが幼児の頃を思い出して答えてください」と付け加えたので，幼児のしつけを経験したことのある小学校３年生の母親に，理想的なしつけに対する考えが出るものと思っていたが，両者の間には大きな考え方の差は認められなかった。

全体の結果（図２－２）は，「やり方などの手本を示して自分ひとりでするように努力させる」が59.9%，「途中までがんばってやったのだからと考え手伝ってやる」が24.6%，「最後までひとりでやり通すよう励ます」が12.1%であった。

「手本を示して自分ひとりでするよう努力させる」と答えている母親が59.9%に及んだことは，しつけする上で一番大事なことは「手本を示す」，「手本を示しながら一緒にさせる」と答えた母親の数とほとんど同数であり（図２－１）母親のしつけ上の考え方があらわれているように読みとれた。

しかし，「途中までがんばってやったのだからと考えて手伝ってやる」と答えた母親が意外と多かったのは，子育て上の母親の複雑な気持をのぞかせているようである。

(3)　自分の子，よその子への対応

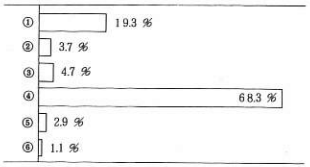
家庭内外で，母親のしつけの対応はどう違うのか，２点について質問した。

第１点目は，家庭内において，「来客がいる所にお子さんが入ってきて，お菓子を手でつまみとろうとした時あなたはどうしますか」の質問に対して「1.行儀が悪い子だねと注意する」，「2.そんなことをすると人に笑われますよと注意する」，「3.みっともないから今度からしないでねと注意する」，「4.ちょうだいしてからもらうのですよと教える」，「5.何も言わずに目くばせしたり態度で注意を示す」，「6.特に注意しない」の六つのうちから一つを選択させた。

第２点目は，外へ出て，よその子への対応はどうなのかをみるために，「食堂で食事をしていた時，よその子どもが走りまわったりしてひどくさわいでいた時，あなたはどうしますか」と質問し，「1.その場ですぐ注意する」，「2.その子の親に話して注意してもらう」，「3.その子にどうしてそんな

ことをするのか理由を聞いてから注意する」，「4.みてみぬふりをする」の四つから一つを選択させた。

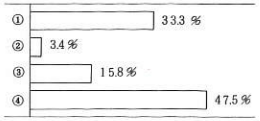
図２－３　自分の子への対応



① 「行儀が悪い子だね」と注意する
② 「そんなことをすると人に笑われますよ」と注意する
③ 「みっともないから今度からはしないでね」と注意する
④ 「ちょうだいしてからもらうのですよ」と教える
⑤ 何も言わずに目くばせしたり態度で注意を示す
⑥ とくに注意はしない

よその子への対応

図２－４



① その場ですぐ注意する
② その子の親に話をして注意してもらう
③ その子にどうしてそんなことをするのか理由をさいてから注意する
④ みてみぬふりをする

表２－１　幼稚園・小学校別

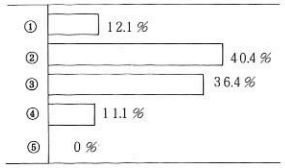
	①	②	③	④
幼　稚　園	35.0%	3.6%	15.5%	45.9%
小　学　校	31.4%	3.2%	16.2%	49.2%

全体的なことをこの二つの結果からみると，家庭内のわが子の行動には，ほとんどの親は“その時，その場”で教えたり，注意をして，きびしくしつけるようであるが，外でのよその子へは，みてみぬふりをすると答えている母親が半数近くに及んでいる。

もう少し詳しく自分の子への対応を検討してみると，お菓子をつまみとろうとしたわが子へのしつけに対して，幼稚園児の母親は，75.8%の高い比率で「ちょうだいしてからもらうのですよと教える」と答えている。「行儀が悪い子だねと注意する」と答えている母親を合計すると90%を超す。このような場面では，この二つの方法でしつけているとも言える。小学校の母親の場合は，「行儀が悪い子だね」とか「そんなことをすると人に笑われますよ」と注意する母親が，幼稚園児の母親よりも10%も増え，その分「ちょうだいしてもらうのですよと教える」ことは減っている。来客時のわが子へのしつけは，他人の目を気にするのか，母親の態度はきびしく，“その時，その場”をとらえてしつけをしているようすがうかがえる。

一方，よその子への対応では，大勢として幼小とも同じ傾向を示す。細かく点検してみると，わが子へは，“その時，その場”をのがさずしつけする母親も，よその子への対応は変わるようである。よその子へは，幼稚園児より小学生の母親が無関心ぶりを示し，注意もせず，見てみぬふりをする場合が多いという結果が出た（表２－１）。このことは，幼稚園児の母親は，よその子へもその場ですぐ注意などをして対応しているが，小学生の母親になると，具体的に対応することまで到らない場合が多いことを示している。どのような背景からこのような結果になったのか興味あるところである。

図２－５　「あいさつ」の習得状況



① いつも言っていると思う
② ほとんどの場合言っていると思う
③ 時々言っていると思う
④ 言っていない時の方が多いと思う
⑤ 全然言っていないと思う

(4)　あいさつのしつけ

自分の子どもが親切にされた時のあいさつと，あいさつをしなかった時の母親の対応について，二つの観点から質問した。

「よその人からお子さんが親切にされた時，お子さんがその場でお礼のことばを言っていると思いますか」の質問に，「1.いつも言っていると思う」，「2.ほとんどの場合言っていると思う」，「3.時々言っていると思う」，「4.言っていない時の方が多いと思う」，

「5.全然言っていないと思う」の五つから一つを選択させた。

次に，「よその人からお子さんが親切にされたのに，お子さんがその場でお礼のことばを言わなかった時，あなたはどうすることが多いですか」の質問に対し，「1.子どもに，その時お礼のことば（「ありがとう」など）を言わせていることが多い」，「2.親がお礼を言って子どもには特に言わせないでそのままにしておくことが多い」，「3.その時はそのままにしておいて，あとで教えることが多い」，「4.特に子どもに注意しない方が多い」の四つから一つを選択させた。

図２－６　「あいさつ」のしつけ

① 子どもに，その時お礼のことば（「ありがとう」など）を言わせていることが多い
② 親がお礼を言って子どもには特に言わせないでそのままにしておくことが多い
③ その時はそのままにしておいて，あとで教えることが多い
④ 特に子どもに注意しない方が多い

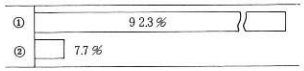
全体の結果（図２－５，図２－６）からみてみると，52.5%の母親は，お礼は「いつも」「ほとんど」言っていると考えている。母親がそばにいて，もしお礼を言わなかった場合は，“その時，その場”で言わせると答えた母親が92.8%に達した。このことや，（図２－３）の結果から判断して，対社会的な人間関係のルール等のしつけは，適時にそして的確に教えこもうとする母親の姿勢がうかがえる。

結果をまとめてみると，①子どものしつけで一番大事だと思っていることは，「手本を示す」，「手本を示しながら一緒にさせる」ことだと思う母親が多く，②自分の子どもには，ほとんどの母親は“その時，その場”でしつけをするが，③よその子に対しては，半数近くの母親は見てみぬふりをするということになる。

2　しつけと賞罰

効果的なしつけをする上での母親の考え方を聞いてみた。「ほめるのと叱るのとでは，お子さんに対してどちらの方がききめがあると思いますか」の質問に対して，「1.どちらかといえば，ほめる方がききめがある」，「2.どちらかといえば，叱る方がききめがある」のうちから一つを選ばせた。

図２－７　しつけと賞罰



① どちらかといえば，ほめる方がききめがある
② どちらかといえば，叱る方がききめがある

全体の結果（図２－７）をみて明らかなように，「どちらかというとほめる方」と答えた母親が92.3%に達した。

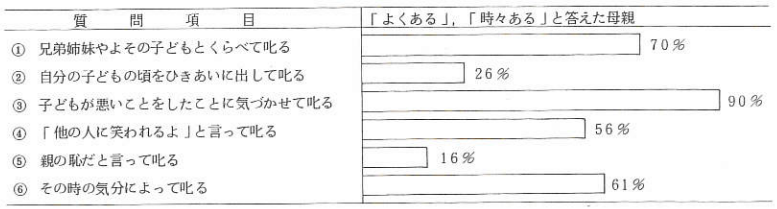
幼稚園児・小学校３年生別にみても，幼稚園児と小学生の母親の考え方には大きな差がない。ただ，小学生の母親には「叱る方がききめがある」という答えがやや増え，年令に応じた上手なほめ方，叱り方の使い分けが必要になってくるようである。

母親は，具体的な場面でどのような対応をしているのか，非常に興味あるところである。

3　しかり方

子どもを叱るとき，どんな叱り方をするのか，次の６項目について質問した。各質問に「よくある」，「時々ある」と答えた母親の比率は，図２－８のとおりである。

図２－８　叱り方



全体的にみてみると，90％もの母親が「子どもが悪いことをしたことに気づかせて叱る」と答えており，冷静に教え諭して叱ると答えている母親が多かった。一方，「その時の気分によって叱る」と答えた母親が61％にも及んだ。このことを，前者と関連して考察してみると，母親は，頭の中で冷静に子どもに対応していこうとしていても，その時の精神状態によって対応に変化することがあり，子どものしつけ上，親の精神的安定が重要な要素になってくるものと思われる。

70％の母親は，叱るとき兄弟姉妹やよその子をひきあいに出すと答えている。子ども達に言わせると，叱られる時，最もいやなケースは，兄弟姉妹やよその子をひきあいに出して叱られる時だと答えるが，

表２－２　叱り方(1)
― よその子と比較して ―

	よくある	時々ある	な　い
幼　稚　園	4.6％	62.9％	32.5％
小　学　校	6.5％	65.9％	27.6％

表２－３　叱り方(2)
― 自分の子どもの時と比較して ―

	よくある	時々ある	な　い
幼　稚　園	0	16.5％	83.5％
小　学　校	2.2％	33.5％	64.3％

表２－４　叱り方(3)
― 他の人に笑われる ―

	よくある	時々ある	な　い
幼　稚　園	5.7％	47.9％	46.4％
小　学　校	7.0％	51.4％	41.6％

表２－５　叱り方(4)
― 親　の　恥　だ ―

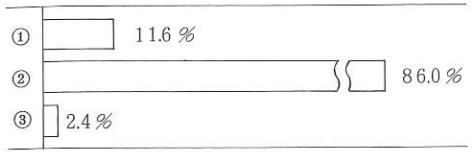
	よくある	時々ある	な　い
幼　稚　園	0.5％	12.9％	86.6％
小　学　校	1.6％	16.2％	82.2％

このようなケースは，幼稚園児の母親より小学生の母親の方がさらに増える傾向を示す（表２－２）。幼稚園児には「自分の子どもの頃をひきあいに出して叱る」母親はほとんどいないが，物わかりのつく小学生になると，ひきあいに出して叱るという母親が２倍に増えている（表２－３）。同様に，子どもが幼稚園児から小学生になると「他の人に笑われるよ」と叱る例が増え，「親の恥だ」と言って叱るという母親も増えてくる（表２－４，表２－５）。しかし，全体では「人に笑われるよ」と叱る母親は56％に及ぶが，「親の恥だ」という叱り方をする母親は16％と少ない。

４　体　　罰

しつけ上，体罰をどう考えているのか。「体罰を与えることは，お子さんのしつけ上必要なことだと思いますか」の質問に対して，「1.体罰は絶対与えるべきでない」，「2.体罰の必要な時は与えてもよい」，「3.しつけとして体罰を与えるのは当然である」の三つのうちから一つを選択させた。

図２－９　体罰の是非



① 体罰は絶対与えるべきでない
② 体罰の必要な時は与えても良い
③ しつけとして体罰を与えるのは当然である

表２－６　体罰の是非（幼小別）

	①	②	③
幼稚園	14.9％	82.0％	3.1％
小学校	8.1％	90.3％	1.6％

全体の結果（図２－９）からみると，しつけ上「体罰は必要な時与えても良い」と考えている母親は，86％に達した。幼稚園児，小学校３年生別にみると，幼稚園児より小学生の母親の方が，さらに増える傾向を示している（表２－６）。

しつけの賞罰の質問項目で，ほとんどの母親は，しつけ上「ほめる方がききめがある」と答えていたにもかかわらず，この結果では86.0％の母親が「体罰は必要な時与えても良い」と答えており，両者の間に矛盾が見られる。母親は，しつけの効果を与えながら柔軟な対応をしているようであり，理想と現実のしつけ上の悩みがうかがえる。

第３節　母親の生活と育児・しつけ

１　母親の生活と育児

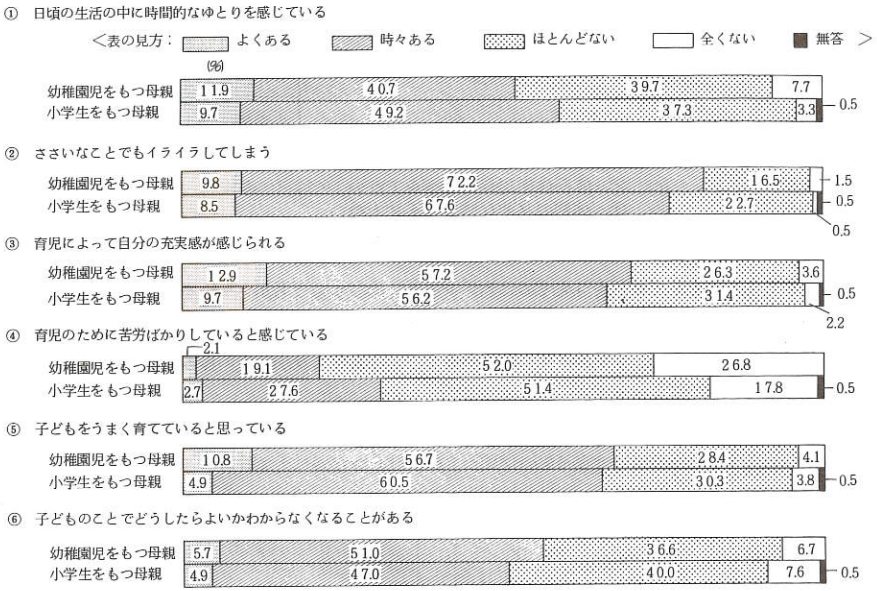
家庭におけるしつけの中心的担い手は母親であり，90％近い母親がいつもしつけにかかわっているということがわかった（表１－５）。そこで，母親の日常生活がどのようになっているのか，また，子どもの育児やしつけについて母親はどのように考えているのかを探るため六つの観点から調べてみた。その回答の集計結果は，図３－１の通りである。

設問①の「日頃の生活の中で時間的なゆとりを感じているか」についてみると，「いつも感じている」と「時々感じている」を加えると，「時間的なゆとりを感じている」と回答した母親は55％であった。幼・小別にみると，小学生をもつ母親の方が幼稚園児をもつ母親より時間的なゆとりを感じているのが若干多く，全く時間的なゆとりがないと回答しているのは幼稚園児の母親の方が多かった。

母親の日常生活における時間的なゆとり感は母親の生活環境と深くかかわっていると考えられるので，家族形態と母親の就業状況の二点から時間的なゆとり感との相関関係を探ってみた。その結果は図３－２及び図３－３の通りである。

家族形態の観点からみると，時間的なゆとりを感じているのは，核家族（夫婦と子どもの家族）の母親の場合は，幼稚園児の母親の約70％，小学生の母親の85％であった。また，拡大家族（夫婦と子ども・祖父母等の家族）の場合は，幼稚園児の母親の45％，小学生の母親の50％であった。核家族の母親の方が拡大家族の母親より時間的なゆとりを感じているのがはるかに多いという実態が浮かびあがってくる。一方，母親の就業状況の観点からみると，時間的なゆとりを感じているのは職業についていない母

図３－１　母親の生活と育児



親や自営・内職・パート職についている母親に多く，定職についている母親の場合はかなり少なくなっている。

こうしてみると，時間的なゆとり感は，母親をとり巻く生活状況の中で，核家族か拡大家族かの家族形態により，また，母親が定職を持ち家の外で働いているか，あるいは，家の中にいることが多いかどうかの就業状況により大きく左右されていることがわかる。

設問②の「ささいなことでもイライラしてしまう」ことについて，「よくある」「時々ある」と回答している母親が80%近くもいるのは注目に値する。このイライラ感について幼・小別にみると，幼稚園児の母親の82%，小学生の母親の76%がイライラを感じており，両者ともほぼ同じ比率であった。また，家族形態別にみても，全体としては核家族の母親も拡大家族の母親も同様な比率であった。さらに，母親の就業状況からみると，幼稚園児をもち内職の仕事をしている母親と小学生をもち無職の母親の場合イライラを感じているのが約50%と比較的少ないが，他の母親の場合はいずれも75%～90%と多くなっている。このように，母親のイライラ感は，子どもの幼・小の違いや家族形態の違い，さらに母親の就業状況の違い（ただし，上記の内職，無職の母親を除く）により異ってくるのではなく，大部分の母親が同じようにイライラを感じているという実態がみられる。

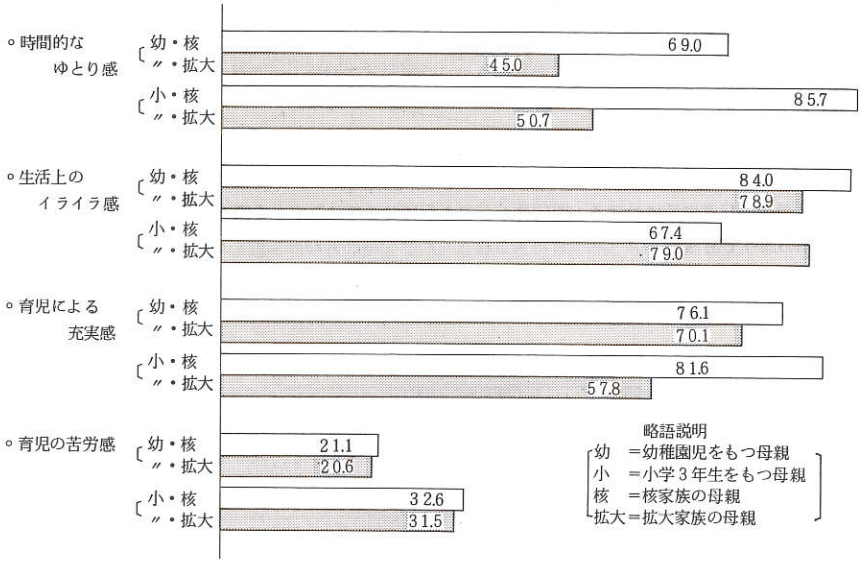
このように大部分の母親が精神的に不安定な状況にあるという実態が，「その時の気分によって叱る」ことが多くあるというしつけの実態（図２－８）の要因となっているとも考えられる。また，このような母親のイライラ感が子どものしつけや教育に影響を及ぼすことも考え合わせると，このような母親の

精神的・情緒的不安定状況は大きな問題であると指摘される。

設問③の「育児による充実感」についてみると，約70%の母親が育児の充実感を持っている。これは，設問⑤の「子どもをうまく育てている」と思っている母親の比率（66%）とほぼ同じであり，「うまく育てている」という認識は，「育児による充実感」につながっているものと考えられる。他方，育児による充実感が感じられないという母親の比率（約30%）は，設問④の「育児のために苦労ばかりしている」と感じている母親の比率（30%）と同じであり，また，設問⑤の「子どもをうまく育てている」と思わない母親の比率（30%強）とも同じであることから，設問の③，④，⑤は関連性の高い項目であることがわかる。

そこで，育児による充実感と苦労感とのかかわり具合を検討してみた。（図３－２，図３－３参照）

図３－２　家族形態と母親の生活



育児による充実感は，家族形態別にみると核家族の母親に多い。また，就業状況別にみると，無職や自営の母親に多く，次に，内職や定職の母親となり，パート職の母親になると約50%と少なくなっている。

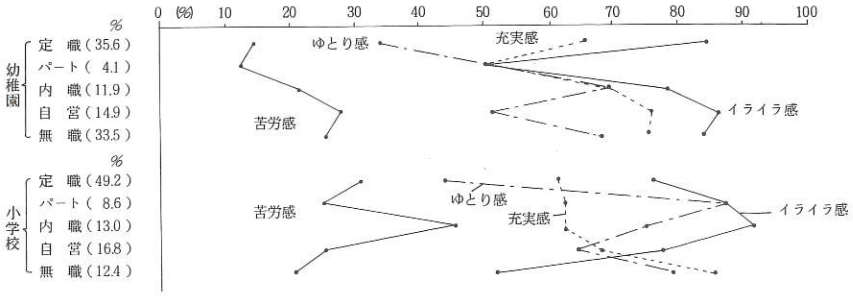
育児による苦労感は，小学生の母親の方が幼稚園児の母親より約10%多い。これは子どもが学校に行くようになって子どもの生活態様が変わっていくのに伴って親の苦労の中身や様相も変わっていくためではないかと考えられる。この苦労感を家族形態別にみると核家族の母親と拡大家族の母親の差はなく同じような結果を示している。就業状況別にみた場合に特徴的傾向を示すものは見あたらなかった。ただ，自営や無職の母親は，子どもが幼稚園児の場合は苦労感を感ずるのが他と比べて多くなり，子どもが小学生の場合苦労感を感ずるのが他と比べて少なくなっている。

このような傾向から，一般的に，家の外で働いている母親と家の中にいることが多い母親の場合とで

は，母親の生活意識や生活感情に違いが出てくるのではないかと考えられる。そしてそれが子どもの育児やしつけについての考え方や方法等にも違いとなって現われてくるものと思われる。

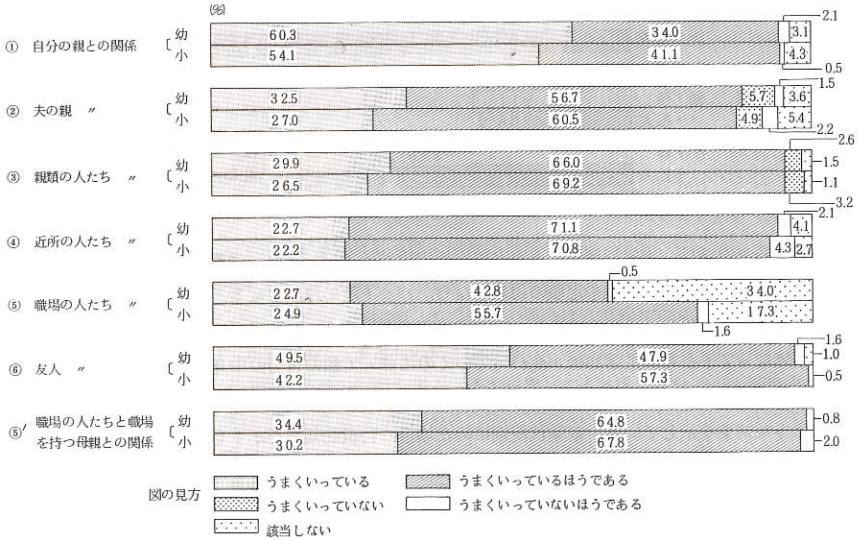
設問⑥の「子どものことでどうしたらよいかわからなくなることがある」ということについては，約半数の母親が「ある」と答えている。これは図３－９の「子どもをしつける上で困っていること」があると答えている母親の比率（40％）と大体同じであり，詳しい分析と考察は図３－９のところにまわしたい。

図３－３　母親の就業状況と生活



次に，母親の日常生活における人間関係がどのようになっているのかを調べてみた。その結果は次の図３－４の通りである。

図３－４　母親の対人関係



まわりの人たちとの人間関係が「うまくいっている」と母親が答えているもので，その比率の高いのは①自分の親と⑥友人に対してである。「うまくいっている」「とうまくいっているほうである」とを合わせると，対人関係はうまくいっていると思っている母親は90％を超える。しかし，②夫の親，③親類の人たち，④近所の人たちとの対人関係で「うまくいっている」という回答比率は低くなっている。

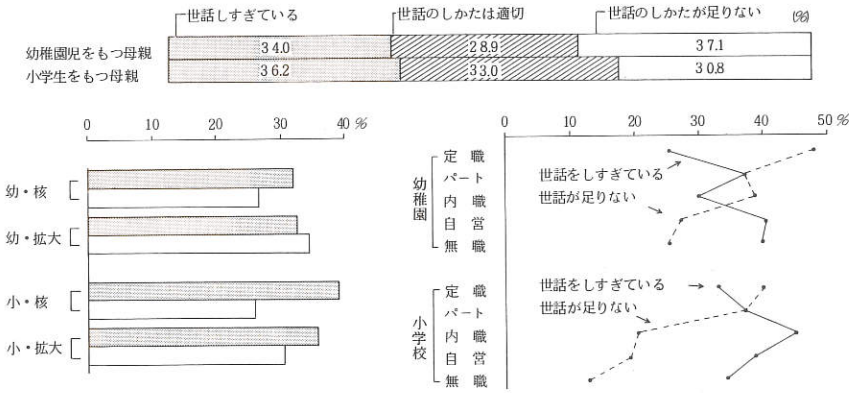
特に，夫の親との関係がうまくいっていないと答えている母親が５％いるが，子どものしつけに祖父母もかかわっているという実態を考えれば，子どもをしつける上で問題となると考えられる。少なくとも家庭における人間関係は家庭生活・社会生活を営んでいく上での要となるものであり，特に，祖父母のいる拡大家族の場合は，互いに望ましい人間関係で結ばれた家庭にする努力が必要である。

2　母親と子どもの世話

子どもについての母親の世話のしかたを調べてみると図３－５の通りである。「世話のしかたが適切である」，「世話のしかたが足りない」，「世話をしすぎている」と思っているのはそれぞれ３分の１ずつであった。ただ，幼稚園児の母親に「世話のしかたが足りない」と思っているのが，小学生の母親と比べて少し多い。

家族形態の観点からみると，核家族の母親は，子どもが幼稚園児でも小学生であっても，世話をしすぎており，過保護の傾向が強く見られる。一方，母親の就業状況の観点からみると，定職についている母親は，子どもの幼・小の別なく世話をするのが足りないと思っているのがかなり多く，逆に自営や無職の母親は世話が足りないと思っているのが少ない。このことから，子どもに接する機会が多い母親はどちらかといえば子どもの世話をしすぎるという一般的傾向を示しているものと考えられる。

図３－５　母親と子どもの世話



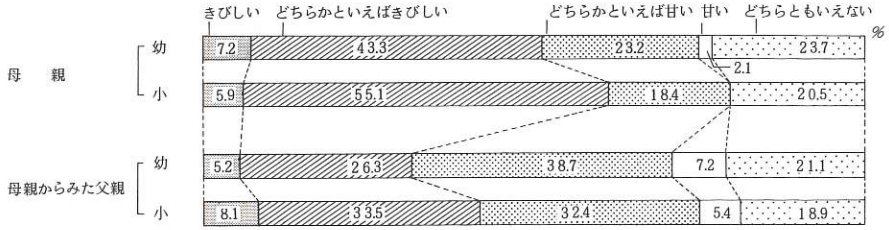
3　子どもにとっての親のしつけ

子どものしつけについて親はどのような態度でのぞんでいるのかをさぐるために「きびしい親」と「甘い親」という観点から調べてみた。その集計結果（図3－6）からみると，母親が自分自身を「きびしい親」，「どちらかといえばきびしい親」と思っているのが，幼稚園児の母親は50%，小学生の母親は60%であった。

母親からみて父親（夫）を子どもにとって「きびしい親」，「どちらかといえばきびしい親」と思っているのが，幼稚園児の母親は30%，小学生の母親は40%であった。

全体としては，子どもが小学生になると父親・母親ともきびしくなっているという実態と，しつけに関しては母親はきびしく，父親は甘いという傾向が表われていると考えられる。

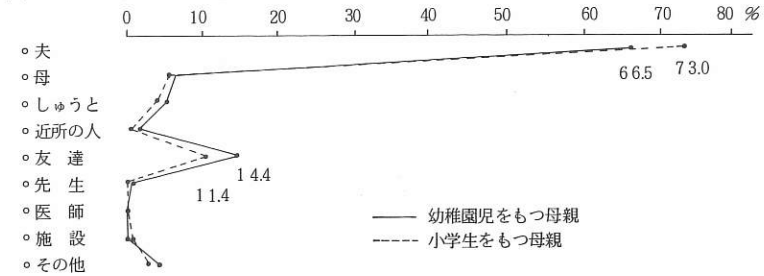
図3－6　子どもにとっての親のしつけ



4　育児・しつけの相談

母親が育児やしつけのことで悩んだ時に相談する相手としてあげているのが図3－7である。相談相手として「夫」をあげている母親が約70%であった。次に，「友人」をあげているのは約10%であり，その他の人たちをあげているのは非常に少なかった。特に，幼稚園や学校の先生，医師といった専門的な人たちや，教育相談にのってくれる施設に育児やしつけの相談をしている母親はほとんどみられなかった。

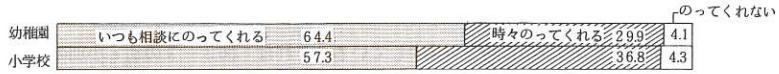
図3－7　母親の相談相手



母親が育児やしつけについての相談を父親（夫）にもちかけた時の父親の対応のしかたは図3－8の通りである。「いつも」父親が相談にのってくれると答えている母親は60%であった。「時々」相談にのってくれるというのも含めると，ほとんど全ての父親は母親と一緒になって育児やしつけのことで困った時は話合いをしていると思われる。しかし，父親が相談にのってくれないと答えている母親は4%

であった。このことは，夫婦が協力して育児やしつけに当たるという基本的な親の姿勢からすれば，たとえ回答の比率が低いとはいえ問題として残る。

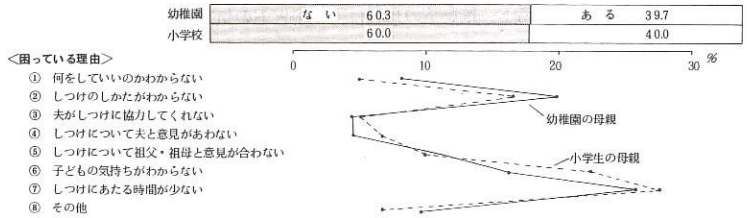
図3－8　母親の相談についての父親の対応



5　しつけと悩み

子どもにしつけをしていく上で母親として困っていることがないのか，あるとすればどのような悩みがあるのかを調べてみた。その実態は下の図3－9の通りである。

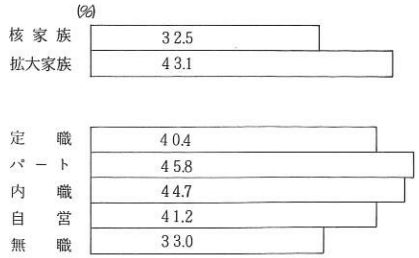
図3－9　しつけをする上で困っていること



子どものしつけ上困っていることがあると答えている母親は，子どもの幼・小の別なく，40%であった。困っている理由としてあげているものをみると，その内容や比率は，幼稚園児の母親も小学生の母親も同じで，興味のある傾向を示している。比率の多い順にあげると，「しつけにあたる時間が少ない」（27%），「子どもの気持ちがわからない」（20%），「しつけのしかたがわからない」（18%）であり，この三つの内容項目に集中している。なお，「子どもの気持ちがわからない」，「しつけのしかたがわからない」，「何をしつけてよいのかわからない」というような母親の悩みが大きいことから考えると，子どものしつけについての母親に対する学習や相談の機会の拡充等の援助が必要であると思われる。

母親のしつけの悩みについて家族形態と母親の就業状況の二点から関連性を探ってみたのが図3－10である。　図3－10

A　しつけ上困っていることがある比率　　B　困っている理由（①～⑧は図3－9の項目を示す）



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	計
核家族	7.2	23.3	7.2	7.2	0	27.6	11.6	15.9	100%
拡大家族	8.2	18.8	3.3	6.6	15.6	17.2	22.1	8.2	100
定職	2.0	9.5	2.0	8.6	11.4	14.3	45.7	6.5	100
パート	25.0	20.0	0	0	5.0	30.0	15.0	5.0	100
内職	5.4	24.4	10.8	2.7	13.5	18.9	16.2	8.1	100
自営	4.6	32.6	7.0	2.3	14.0	16.3	18.6	4.6	100
無職	12.0	20.0	6.0	6.0	6.0	28.0	6.0	16.0	100

拡大家族の母親の方が核家族の母親よりしつけの悩みが多く，職を持っている母親の方が無職の母親よりしつけの悩みが多いという図式が表われている。

悩みの理由を家族形態・就業状況別に示したのが図３－10のＢであるが，回答比率の高い理由をあげると，「子どもの気持ちがわからない」，「しつけのしかたがわからない」，「しつけにあたる時間が少ない」となり，この三つの理由に回答が集中している。これは，図３－９の幼・小別の「しつけで困っている理由」の場合と全く同様である。

この三つの悩みの理由について特徴的な傾向を探ると次のようになる。

まず，理由の内容項目からみると，「しつけにあたる時間が少ない」と答えているのは，拡大家族の母親に多く，定職を持っている母親に圧倒的に多いことがわかる。「子どもの気持ちがわからない」というのは，核家族の母親や，パート職・無職の母親に多い。「しつけのしかたがわからない」というのは，核家族の母親や自営の母親に多い。

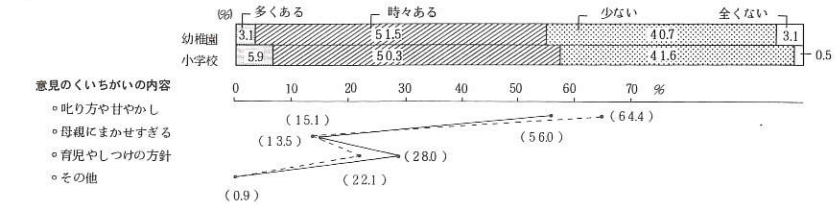
次に，家族形態別にまとめてみると，核家族の母親は，「子どもの気持ちがわからない」（28％）「しつけのしかたがわからない」（23％）と答えているのが多いが，「しつけにあたる時間が少ない」（12％）と悩んでいるものが少なくなっている。一方，拡大家族の母親は，「しつけにあたる時間が少ない」（22％），「しつけのしかたがわからない」（19％），「子どもの気持ちがわからない」(17％)と答えているが，その次に「しつけについて祖父・祖母と意見が合わない」（16％）という悩みをあげているのが特徴的である。

さらに，母親の就業状況別にまとめてみる。定職を持っている母親は，「しつけにあたる時間が少ない」（46％）という理由をあげているのが多く，次に「子どもの気持ちがわからない」（14％），「しつけについて祖父・祖母と意見が合わない」（11％）となっている。無職の母親は，「子どもの気持ちがわからない」（28％），「しつけのしかたがわからない」（20％）をあげ，次に「何をしつけていいのかわからない」（12％）をあげている。内職の母親と自営の母親は悩みの理由のあげ方がほぼ同様であり，比率の多い順にあげると「しつけのしかたがわからない」，「子どもの気持ちがわからない」，「しつけにあたる時間が少ない」となり，続いて「しつけについて祖父・祖母と意見があわない」となっている。パートの仕事についている母親の場合は，無職の母親と大体同じような傾向を示しているが，「子どもの気持ちがわからない」（30％），「しつけのしかたがわからない」（20％）のほかに，「何をしつけていいのかわからない」と答えているのが25％もいるのが特徴的である。

このような母親のしつけ上の悩みの理由は，それぞれ複合的に関連しあっていると考えられる。現実の厳しい社会情勢・生活環境の中にあって，子どもに接する時間が思うようにとれず，しつけの内容や方法がわからず，そして子どもの気持ちがつかめずに悩んでいる母親の姿が浮き彫りにされるようである。さらに，このような母親の悩みの実態からすると，今日の母親たちはかなり深刻な状況におちいっているものと推察される。なお，今回は幼稚園児と小学校３年生の子どもを持つ母親について調査したものであるが，小学校高学年の児童や中学生を持つ母親についてしつけ上の悩みを考えてみれば，これまで見てきたものとは違った様相を示してくるものと考えられる。

次に，しつけについての親の意見のくいちがいについて調べた結果は図３－11の通りである。

図３－11　しつけについての親のくいちがい



親同士の間にしつけについての意見のくいちがうことが「多くある」・「時々ある」と答えているのが合わせて約55％ある。意見のくいちがいの出てくる内容をみると，圧倒的に多いのは「叱り方や甘やかし」についてであり（約60％），次いで「育児やしつけの方針」（約25％），「母親にまかせすぎていること」（約15％）となっている。また，意見のくいちがうことが「全くない」と答えている母親もいる（約２％）。くいちがうことが「少ない」と答えている母親は40％強いるが，「時によっては意見のくいちがうことがある」とも考えられる。この結果からみれば，大部分の親同士の間には，多少にかかわらず意見のくいちがうことがあると考えてよい。

両親の意見のくいちがいからしつけの方針や方法にもくいちがいが生じ，それが子どもの側にどう受けとめてよいのかの迷いやとまどいともなり，子どもに好ましくない影響を及ぼすと考えられる。少なくとも親同士はしつけ等についての基本的な話合いを持ち，共通理解のもとに協力してしつけに当たることが望まれる。

第４節　子どもへの期待・家庭の役割

１　子どもへの期待

母親が子どもに対してどのような期待をもって育てているかについて，次の二つの視点から調べてみた。第１の視点は，知育・徳育・体育に関することであり，第２の視点は，徳目に関することである。

表４－１　期待する子ども像

A

	勉強	思いやり	健康
幼稚園	2.1％	57.2％	40.7％
小学校	5.4	58.4	36.2
計	3.7	57.8	38.5

B

	責任感	積極性	根気	協調性	やさしさ	善悪	奉仕
幼稚園	5.1％	22.2％	8.8％	6.7％	23.7％	33.0％	0.5％
小学校	6.5	13.5	14.6	4.3	22.2	37.3	1.6
計	5.8	17.9	11.6	5.5	23.0	35.1	1.1

表４－１のＡは第１の視点からの集計表であり，Ｂは第２の視点からの集計表である。

どのような子どもになって欲しいと願って育てているかをみてみると，「やさしくて思いやりのある子ども」が57.8％を占めており，ついで，「身体が丈夫で元気な子ども」が38.5％であった。「がんば

って勉強する子ども」は4％弱にすぎなかった。幼稚園児の母親と小学校3年生の母親とを比較してみると，両者の間には基本的にほとんど差がみられなかった。ただ，幼稚園児の母親はどちらかといえば，「体育」に関心をもち，小学校3年生の母親は「知育」に関心をもつものがわずかではあるがふえてきている。しかし，全体の傾向としては，母親の期待する子ども像は徳育的にすぐれた子にあるといえよう。

それでは，母親は具体的にどんな子どもになって欲しいと願って育てているのであろうか。表4－1のBでわかるように，「善悪の判断がきちんとできる子ども」が35％で一番多く，ついで，「他人の気持ちや立場を大事にする子ども」が23％，「自分からすすんでものごとに取り組む子ども」が18％，「根気強い子ども」「他人と力を合わせてものごとに取り組む子ども」の順であった。「奉仕の心を持った子ども」はわずか1％にすぎなかった。子どもたちが今後社会の一員としていろいろな人々と生活を共にしていくことを想定した場合，母親自らが「奉仕」について考えて，この時期の子どもに対してその芽を育てていくという姿勢が今後重要視する必要がある。

家族形態のちがいによって，母親の期待する子ども像に差違がみられるかを考え，クロス集計をしてみたが，前述の傾向と全く同じであった。母親の職業の有無についても差違がみられなかった。

学歴獲得志向の風潮と相まって，家庭の教育観が知育偏重となっているといわれている現代社会にあって，今回の調査対象の母親の中に知育重視の傾向がみられず，徳育重視，体育重視の傾向がみられた。このことは，子どもがまだ小さく，受験体制の中に組みこまれていないことにも一因があるのかもしれない。しかし，徳目の中でも，「善悪の判断がきちんとできる子ども」を理想とする母親が3分の1以上もいたことは，青少年非行やいじめなどが社会的課題になっている時だけに，注目に値いする。

2　家庭の役割

家庭の役割を次の二つに整理し，母親の考えを調べた。

① 家庭は，生活の土台である食事・睡眠・排泄・衣服の着脱・清潔などの世話を通して子どもを育てる責任がある。

② 家庭は，子どもが自立することができるようにするために社会の習慣や約束ごと，ことばなどを子どもに教える責任がある。

図4－1　家庭の役割観

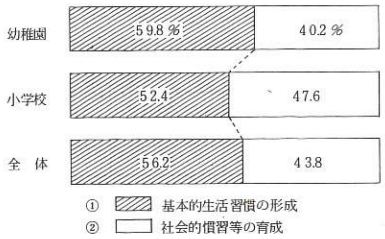
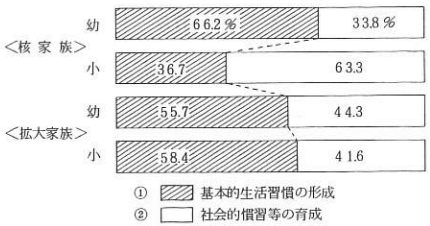


図4－2　家族形態別の家庭の役割観（幼小別）



調査対象の 1137 名の母親のうち56％が，家庭の役割は「子どもの基本的生活習慣を育てる」ことであると考えており，「社会の習慣や約束ごとなどを教える」ことが家庭の役割と考えるものは44％であった。「基本的生活習慣の形成」を家庭の役割と考える母親の方が多い。しかし，子どもの年齢によって差がみられ，子どもの成長にともなって家庭の役割に対する考えが，「社会的慣習等の育成」へと移行していく傾向がみられた。（図4－1）。

次に，属性別の結果を検討したい。まず家族形態別では，核家族と拡大家族ともほぼ同じ結果がでており，家族形態による差は認められない。家族形態と子どもの年齢とクロスしてみると，図4－2の結果になった。核家族でいえば，園児をもつ母親のうち66％が「基本的生活習慣の形成」を家庭の役割と考えていたのに対して，小学校3年生をもつ母親は37％であり，家庭の役割を「社会的慣習等の育成」と考えるものが多かった。拡大家族の場合は，幼・小の差は認められなかった。

母親の職業別では，「パート」の母親に，家庭の役割を「基本的生活習慣の形成」にあると考えているものが多く，67％を占めている。ついで，「内職」「自営」「定職」の順であった。職業の有無で考えると，職業に従事している母親の方が，職業についていない母親よりも「基本的生活習慣の形成」を家庭の役割と考える意見が多い（図4－3）。さらに，子どもの年齢別に分析してみると，「定職」「自営」の場合は二つの考えに対する大きな差がみられなかったが，子どもの成長に対応して「社会的慣習等の育成」がふえてきていた。差が顕著にあらわれたのは，「パート」「内職」「無職」であった。「内職」と「無職」は子どもの成長にしたがい，「基本的生活習慣の形成」の割合が減少し，反対に，「パート」は子どもが大きくなるに従って，「基本的生活習慣の形成」の割合が増加している（図4－4）。「パート」のこの結果は何に起因しているかについて，母親の年齢や家族形態などを含めて分析しなかったので，明確にすることはできなかった。

図4－3　母親の職業と家庭の役割観

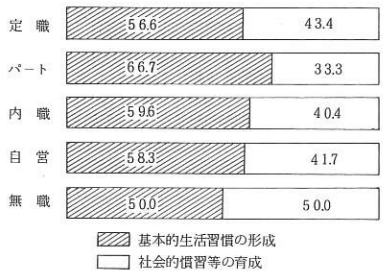
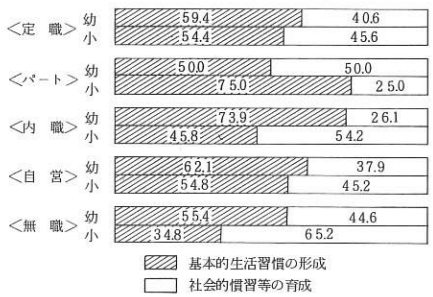


図4－4　母親の職業と家庭の役割観（幼小別）



次に，家庭の役割に対する考え方のちがいと，子どもの実態，しつけに対する親の関心，しつけの方法との間の関係をみていきたい。

(1) 子どもの実態と関係

表4－2は家庭の役割に対する母親の考え方と子どもの実態（基本的生活習慣・社会的慣習の習得状

況）との間の関係を示したものである。子どもが身につけている項目の順位は，家庭の役割に対する二つの考え方の間に大きな変化は認められなかった。両者とも，「着脱」以外は社会的慣習にかかわる項目を身につけている度合が高かった。しかし，項目別にみると，家庭の役割を「基本的生活習慣の形成」と意識している母親の方が，「社会的慣習等の育成」と考える母親より「起床」のしつけは，身についていると判断している。「公共心」については，反対に「社会的慣習等の育成」を家庭の役割と考える母親の中に多かった。

幼稚園児をもつ母親に限っていえば，「起床」については家庭の役割を「基本的生活習慣の形成」と考える母親に多く，「約束」と「思いやり」は「社会的慣習の育成」と考えている母親に多い。

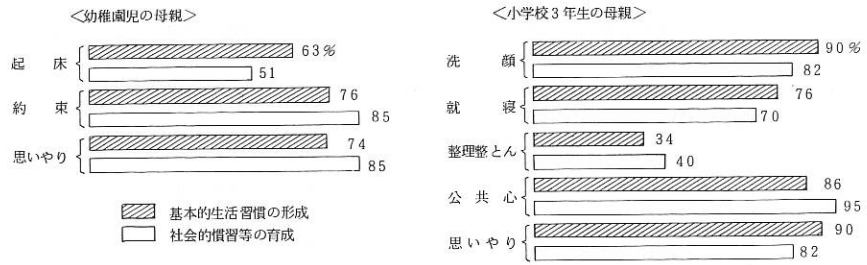
小学校３年生をもつ母親の場合は，「洗顔」と「就寝」については「基本的生活習慣の形成」と考える母親に多く，「整理整とん」「公共心」「思いやり」は「社会的慣習等の育成」と考えている母親に多い（図４－５）。

これらの項目に限っては，家庭の役割に対する母親の考え方と子どもの実態との間に関連性があると推察される。

表４－２　子どもの実態と家庭の役割観

子どもの実態＼家庭の役割		基本的生活習慣の形成	社会的慣習等の育成
b着　脱	98.7	99.0	98.2
l耐　性	93.4	93.9	92.7
f交通ルール	90.8	91.1	90.3
g公　共　心	90.5	88.2	93.3
k会　話	86.0	86.4	85.4
c洗　顔	83.9	84.5	83.0
m思いやり	82.6	81.2	84.9
i約　束	79.4	77.4	81.7
hあいさつ	79.1	78.8	79.4
e食　事	64.1	63.8	64.8
d起　床	63.0	60.6	54.0
a就　寝	57.0	62.9	63.1
j整理整とん	43.8	43.2	44.9

図４－５　子どもの実態と家庭の役割観



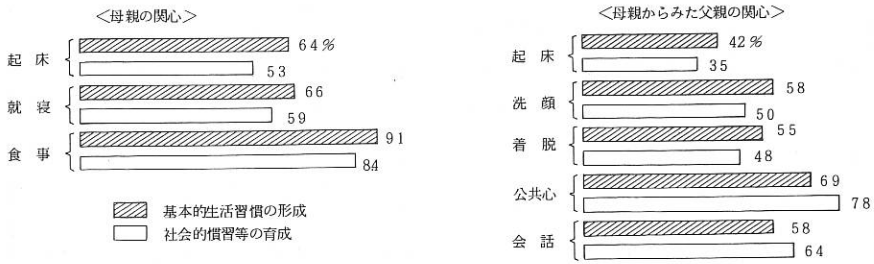
(2)　しつけに関する親の関心との関係

家庭の役割に対する考え方と親の関心をもつしつけの内容との関係をみるために，質問25（家庭の役割）と質問２（母親の関心）及び質問３（母親からみた父親の関心）とをクロス集計してみたが，全体的な傾向としては，家庭の役割に対する二つの考え方の間には差がみられなかった。しかし図４－６に示した事項についてのみ少しであるが関連性があると推察される。

母親の場合，「起床」「洗顔」「着脱」など基本的生活習慣にかかわる事項が，家庭の役割を「基本的生活習慣の形成」と考えている母親の中に多くみられたが，父親も同じように「起床」「洗顔」「着

脱」など基本的生活習慣にかかわる項目は，家庭の役割を「基本的生活習慣の形成」と意識しているものに若干多くみられた。ただ，父親の場合，社会的慣習にかかわる「公共心」「会話」については，家庭の役割を「社会的慣習等の育成」と考える父親に多くみられた。

図４－６　しつけに対する親の関心と家庭の役割



(3)　しつけの方法との関係

家庭の役割に対する考えとしつけの方法との関係を，①自分の子どもへの対応，②他人の子どもへの対応，③子どもの自立への対応の３点から分析を試みた。

①については，「来客中に子どもがお菓子をつまみとろうとした時，あなたはどうしますか」という質問に対して，家庭の役割に対する二つの考え方の間にちがいがあるのかどうかをみた。表４－３に示したように，全体的には二つの考え方による差はあまりみられなかったが，幼稚園児をもつ母親にちがいがみられた。家庭の役割を「基本的生活習慣の形成」と考える母親の方が，「ちょうだいをしてからもらうのですよと教える」と答えるものが多く，「行儀が悪いと注意する」と答えたものは，「社会的慣習等の育成」を家庭の役割と考える母親に多かった。

表４－３　子どものしつけと家庭の役割観

質問15＼質問25 幼小別	基本的生活習慣の形成			社会的慣習等の育成		
	幼稚園	小学校	計	幼稚園	小学校	計
行儀が悪いと注意	10.3%	24.7%	16.9%	20.5%	24.1%	22.4%
笑われると注意	0.9	5.2	2.8	2.6	6.9	4.8
みっともないと注意	3.4	6.2	4.7	5.1	4.6	4.8
教　え　る	82.8	58.8	71.8	65.4	62.1	63.6
目くばせで注意	1.7	4.1	2.8	3.8	2.3	3.0
注意しない	0.9	1.0	0.9	2.6	－	1.2

次に，他人の子どもに対する対応についてみるために，「よその子が食堂でさわいでいた時に、あなたはどうしますか」という質問に対する回答を整理すると，表４－４の結果を得た。家庭の役割に対する二つの考え方の間には，他人の子に対する対応の差がみられず，どちらも，「みてみぬふりをする」が多かった。ここでも，幼稚園児をもつ母親にちがいがみられた。家庭の役割を「社会的慣習等の育成」と考えている母親は，「すぐ注意する」と答えたものが多く，「基本的生活習慣の形成」と意識している母親の方に「みてみぬふりをする」と答えたものが多かった。

家庭の役割を「社会的慣習等の育成」と考える母親は，他人の子どもが望ましくない行動をしている

と判断した時，「基本的生活習慣の形成」と意識している母親よりも積極的に注意する傾向がうかがえる（特に，幼稚園児をもつ母親の場合）。

表4－4　他人の子に対する対応と家庭の役割観

質問25 / 幼小別 / 質問16	基本的生活習慣の形成			社会的慣習等の育成		
	幼稚園	小学校	計	幼稚園	小学校	計
すぐ注意する	30.2％	29.9％	30.0％	42.3％	33.3％	37.6％
親に話す	3.4	4.1	3.8	3.8	3.0	3.0
理由をきいて注意	19.0	13.4	16.4	10.3	15.2	15.2
みてみぬふり	47.4	52.6	49.8	43.6	44.2	44.2

最後に，子どもの自立にかかわることとして，「子どもが服を着ようとボタンをかけている途中で，出来ないといってきた時，あなたはどうしますか」についての反応をみると，家庭の役割を「基本的生活習慣の形成」と考えている母親は，「社会的慣習等の育成」と考えている母親よりも，「手伝ってやる」「親がしてやる」と答えたものが多かった。反対に，子どもを励ましたり，手本を示したりしながら自分でやりとおすように指導すると答えたものは，「社会的慣習等の育成」と考えている母親に多かった。

表4－5　子どもの自立と家庭の役割観

質問25 / 幼小別 / 質問17	基本的生活習慣の形成			社会的慣習等の育成		
	幼稚園	小学校	計	幼稚園	小学校	計
やり通すよう励ます	12.1％	10.3％	11.3％	14.1％	12.6％	13.3％
手本を示し努力させる	54.3	55.7	54.9	61.5	70.1	66.1
手伝ってやる	31.0	29.1	29.1	21.8	16.1	18.8
親がしてやる	2.6	4.7	4.7	2.6	1.1	1.8

第3章　調査結果のまとめと今後の課題

この調査は，就学前の幼児をもつ母親と小学校3年生の子どもをもつ母親が，家庭においてどのような内容や方法でしつけを行っているのか，また，しつけにかかわることで日頃どのような気持で家庭生活をおくっているのか，などについて調べるために実施したものである。調査結果については，第2章で詳細に記したが，ここでは，その結果を要約して提示するとともに，家庭のしつけにかかわる問題点や今後の課題について検討していきたい。

第1節　調査結果のまとめ

1　対象者とその家族の概要

調査対象者は，県内の6幼稚園の園児及び28小学校の3年生の母親であり，それぞれ604名であった。回収された調査票のうち有効票は1137である。そのプロフィールを簡単にまとめてみたい。

1137名の母親のうち，ほとんどが30代（30代前半が40％，後半が47％）であった。母親の就業状況別では，「定職」が42％，「パート」6％，「内職」12％，「家業」16％で，約4分の3の母親が何らかの仕事に従事しており，特に「定職」が圧倒的に多い。家族形態別では，「核家族」が31％，「拡大家族」が55％であり，「拡大家族」が半数以上を占めていた。子どもの数では，「2人」が58％，「3人」が33％で，「2人」「3人」で全体の90％をこえていた。子どもの年齢（園児・小学校3年生）別では，同数ずつであり，子どもの男女別でも同じであった。きょうだい関係では，「末っ子」と「一番上」が多く，「ひとりっ子」が5％にすぎない。

全体として，山形県の一般的傾向を示す対象者と考えてよいと思われる。

2　しつけの内容

しつけの内容にかかわる13の項目を設定して，それぞれの項目を子どもたちが身につけているのかどうかについて調査した。

- 「ひとりで服を着たりぬいだりする」については，ほとんどの母親が身につけていると考えていた。
- 90％以上の母親が身につけていると考えている項目は，「交通ルールを守る」，「バスなどで空席がなければ立っている（座りたいとさわがない）」，「公共のものを大切にする」であり，社会的な慣習に関するものがほとんどである。
- 「身のまわりの物を整理・整とんする」「朝ひとりで起きる」「ねる時刻になったらひとりで寝る」，「行儀正しく食事をする」など基本的生活習慣に関する項目は，30％強の母親は子どもが身につけていないと考えていた。
- 中でも，「整理整とん」については，50％強の母親が身についていないと考え，特に，小学校3年生の母親の中で，「整理整とん」が身についていないと判断している母親が63％あり，「起床」が身についていないとするものが45％もいたことは注目しなければならない。

子どものしつけに対する両親の関心では，

- どの項目に対しても，父親よりも子どものしつけに対する関心は高いと母親は考えている。
- 項目別では，両親とも基本的生活習慣にかかわる項目よりも，社会的な慣習に関する項目に対して関心が高い。特に，父親は基本的生活習慣のしつけについて50％前後のものしか関心をもっていないと母親は考えている。
- 子どもの実態（基本的生活習慣・社会的慣習の習得状況）と両親のしつけの関心との間には，関連性がみられない。
- 母親は，子どもの習得度の高いと判断している社会的慣習について，子どもの成長にともなって関心が減少し，習得度の低いとみている基本的生活習慣については，逆に，子どもの成長にともない関心も増大している。（特に，「就寝」は大幅に増加）
- 父親の場合は，子どもの習得度と関係なく，子どもの成長にともなって基本的生活習慣・社会的慣習とも関心が増大している。（特に，「就寝」と「思いやり」）

しつけの担い手については，

- 家庭におけるしつけの中心的な担い手は圧倒的に母親であり，父親や祖父・祖母は時々かかわっている状況である。
- しつけに全くかかわっていない父親が10％みられた。
- 「拡大家族」における祖父母のかかわりをみると，母親が家で内職したり，仕事についていない場合，しつけに対する祖父母のかかわりが低くなっている。

3　しつけの方法

- 子どもをしつける方法としては，「手本を示す」「手本を示しながら一緒にさせる」ことが大事だと考える母親が60％をこえていた。具体的な場面を想定して質問した結果も同じ傾向を示していた。
- 自分の子どもに対しては，問題を発見するとその場をとらえてしつけをする母親が多かったが，他人の子どもに対しては，「みてみぬふりをする」と答えたものが約半数を占めた。自分の子どもと他人の子どもに対する対応のし方が異なっていた。
- しつけと賞罰では，90％以上の母親が「ほめることの方がききめがある」と考えていた。
- しかり方では，90％の母親が「子どもが悪いことをしたことに気づかせてから叱る」と答えている。しかし，「その時の気分によって叱る」については，60％の母親が「ある」と答えている。
- 他と比較してのしかり方では，「兄弟やよその子をひきあいに出して叱る」が70％の母親にみられた。しかし，「自分の子どもの頃をひきあいに出して叱る」母親は少なかった。
- 「他の人に笑われるよといって叱る」母親は50％をこえていたが，「親の恥だといって叱る」母親は非常に少なかった。
- 体罰については，「必要な時与えてもよい」とする母親が多く（86％），「体罰は絶対与えるべきでない」と考えている母親は10％にすぎなかった。

4　母親の生活と育児・しつけ

- 母親の半数が日常生活の中で「時間的なゆとり」を感じている。しかし，拡大家族や定職をもっている母親の場合，「ゆとり」を感ずるものが少なくなっている。

- 日頃の生活の中でささいなことにも「イライラ」してしまうことのある母親は80％を超え，家族形態や母親の就業状況の別なく高率を示し，育児や子どものしつけにかかわって大きな問題だと考えられる。
- 「育児がうまくいっている」，「育児による充実感」を感じている母親が70％いる。一方，「育児のことで苦労ばかりしている」と思っている母親は4分の1いる。
- 子どものことで「どうしたらよいかわからなくなることがある」と悩んでいる母親が約半数いる。
- 人間関係がうまくいっていると考えている母親は90％を超すが，拡大家族の中で祖父・祖母とのかかわりで悩んでいる母親も少数ではあるがいる。
- 子どもへの世話については，職業を持ち家の外で働いている母親は世話のしかたが足りないと考えており，家の中にいることの多い母親は世話をしすぎていると考えている。
- しつけについては，どちらかといえば父親が甘く，母親がきびしいという全体像が浮かび上がっている。子どもの成長に伴ない子どもが小学生になると親のしつけかたもきびしくなっていく傾向が表われている。
- しつけのことで相談したい時，父親に相談する母親が圧倒的に多く，父親もよく相談にのっており好ましい傾向を示している。しかし，教師や専門家のところに相談しに行くことはほとんどない。
- しつけについて親同士の間に意見のくいちがう時がよくあるとしているが，その内容としては，「叱り方や甘やかし」や「育児やしつけの方針」についてであり，基本的には親同士の話合いの重要さが浮き彫りにされている。
- しつけのことに関して困っていることや悩みのある母親は40％と比較的少ないが，その内訳として，「しつけにあたる時間が少ない」，「しつけのしかたがわからない」，「子どもの気持ちがわからない」ということをあげているのが多い。中には，「しつけについて夫や祖父・祖母と意見があわない」とか「何をしつけたらよいかわからない」としているのもいる。家族形態や母親の就業状況等の生活環境の違いにより若干の違いはあるが，ほぼ同じような悩みを多くの母親が持っていることがわかる。

5　子どもへの期待

- 「やさしく思いやりのある子ども」に育って欲しいと願う母親が60％弱，「身体が丈夫で元気な子ども」を願う母親が40％弱であり，「がんばって勉強する子ども」を願う母親は4％にすぎなかった。徳育を重視する母親が多くみられた。
- 徳目の中で一番多いのは，「善悪の判断がきちんとできる子ども」であり，全体の3分の1をこえていた。

6　家庭の役割

- 母親の考えている家庭の役割は，「基本的生活習慣の形成」が「社会的慣習等の育成」を若干上まわっていた。
- 家庭の役割に対する考えは，子どもの成長にともなって「基本的生活習慣の形成」から「社会的慣習等の育成」へ変化している。特に，核家族の場合その傾向が顕著にあらわれている。
- 母親の職業との関係でみると，職業に従事している母親の方が，家庭の役割を「基本的生活習慣

の形成」という意見をもつものが多い。

- 子どもの実態との関係では，家庭の役割に対する二つの考え方の間に大きな差がみられない。しかし，幼稚園児をもつ母親においては，「起床」「約束」「思いやり」の項目で，また，小学校3年生の母親では，「洗顔」「就寝」「整理整とん」「公共心」「思いやり」の5項目で，子どもの実態と家庭の役割観に関連がみられた。
- 子どものしつけに対する親の関心では，全体的な傾向として二つの考え方による差はみられない。しかし，母親の関心については，「起床」「就寝」「食事」の3項目で，また，父親の関心においては，「起床」「洗顔」「着脱」「公共心」「会話」の5項目で，家庭の役割観との間に関連性がみられた。
- 他人の子に対する対応のし方では，「注意する」と答えたものは，家庭の役割を「社会的慣習等の育成」と考える母親が多く，「みてみぬふりをする」と答えたものは，「基本的生活習慣の形成」を家庭の役割として考える母親に多くみられた。
- 子どもの自立に関することでは，親が手伝ったり，してあげたりするという答えが，家庭の役割を「基本的生活習慣の形成」と意識する母親に多く，自分でやりとおさせるという答えは，家庭の役割を「社会的慣習等の育成」と意識する母親に多くみられた。

第2節　問題点と今後の課題

以上，幼稚園児及び小学校3年生の子どもをもつ母親のしつけに対する考え方をみてきたが，全体的な観点からみれば，非常に健全な姿勢がうかがえた。ここで，本調査から浮び上ってきた問題点を簡潔にまとめると次のようになる。今後の課題を含めて考察していきたい。

① 子どもの実態をみた場合，幼稚園児，小学校3年生ともに社会的慣習よりも基本的生活習慣が身についていないと考えている母親が多かった。また，父親，母親ともに，基本的生活習慣にかかわるしつけについてはあまり関心をもっていないことがわかった。

以上のような実態をふまえると，子どもの発達課題に対応するしつけのあり方が，今後ますます重要な問題になってくると思われる。就学前には，基本的生活習慣がある程度身についており，小学校低学年には，ほぼ完全に身についているような状況に高めていく必要がある。最近，小学校教育において，基本的生活習慣のしつけにかかわる指導が重視される傾向にあるが，このような家庭におけるしつけの実態と関連があるものと推察される。

② しつけの担当者は主として母親にあった。しかし，母親以外の家族員（父親・祖父母）もしつけの分担者としての役割を果たしていた。一般によくいわれるような「父親不在」の現象は見うけられなかった。

家庭教育は父母の協力のもとで行われるものであるという考えに立てば，この結果は望ましい方向にあるといえる。しかし，問題となるのは，母親からみた父親像・母親像が「厳母甘父」であり，母親と父親の役割分担が必ずしも明確になっているとはいえない。この件に関しては，残念ながら詳細に分析できなかったので，今後の研究にまたなければならない。

③ しつけの方法に関して，ほめる方が効果があると考えているが，実際の場面ではしかる方が多いし，よその子や兄弟をひきあいに出してしかったり，体罰も時には必要だと考えている。一方，子どもが悪いことをしたことに気づかせてしかるとほとんどの母親が考えている反面，その時の自分の感情によって子どもに対応する母親もかなりみられた。また，生活上でイライラ感をもっている母親も多かった。家庭教育は情緒的色彩の強いものであるだけに，親の情緒的安定は子どものしつけにとって重要な意味を持っている。日常生活の中で安定をはかる努力が必要になってくる。

④ 親の期待する子ども像は，「やさしくて思いやりのある子ども」，「善悪の判断をきちんとできる子ども」であった。どちらかといえば，徳育的にすぐれた子に育って欲しいと望んでおり，知育偏重といわれている現代社会においては，意外な結果であった。この結果は，対象者の子どもが幼稚園児，小学校3年生であり，まだ受験を目前にひかえていなかったためとも推察される。しかし，家庭教育の中に学校教育が大きな影響を与えている現在，家庭教育の本来の機能（人格形成の基盤づくり）を考えた場合，大きな意味をもつ結果だといえよう。今後，子どもが成長するにしたがって変化も予想されるが，大事にしていきたいことである。「家庭でやるべきこと」と「学校にゆだねること」を明確にし，家庭教育のあり方が，学校教育との関連の中で位置づけて検討していかなければならないと考える。

子どもにとって，家族は選択することの出来ない運命的なものである。子どもはその家族の中にあって，親の保護と養育をつうじて一人前の社会人に成長していくものである。「親になる」ことは簡単であるが，「親である」ことはむずかしいといわれるように，親自身が親としての義務と責任を果たすために自らを高めていく努力をおしんではならない。そして，個々の親や家族がその責任を十分に果たすとともに，「わが子だけよければ……，わが家さえうまくいければ……」という閉鎖的な家庭観からぬけ出して，近隣の家庭が共に助け合える社会的環境をつくり出していく共存・共生の理念で子どもの健全育成にかかわることが必要になってくると考える。「わが子」は同時に「地域の子」であり，「社会の子」と位置づけ，しつけの問題も地域全体で考える環境をつくりあげる努力が，私たちに課せられた大きな課題といえよう。

参　考　文　献

「審議経過の概要（その3）」　臨時教育審議会　（昭和61年1月22日）
「テキストブック社会学(2)　家族」　山根常男・森岡清美他編（有斐閣）
「子どもと父親・母親」　長島貞夫編　（金子書房）
「家庭教育研究所紀要　№1～№4」　財団法人小平記念会　家庭教育研究所
「子どものしつけ22章」　高石邦男・加藤陸奥雄編　（教育開発研究所）
「月刊　児童心理　第40巻第4号」　金子書房
「社会学辞典」　福武直・日高六郎・高橋徹編　（有斐閣）
「新社会教育事典」　伊藤俊夫・河野重男・辻功編　（第一法規）
「21世紀への家庭教育」　河野重男・俵谷正樹編　（全日本社会教育連合会）

資　料

「家庭のしつけに関する調査」集計結果

質　問　1　あなたのお子さんは，次にあげる①～⑬のことをどの程度できますか。
それぞれについて，下の□の１～４の中からあてはまるものを選び，その番号を○でかこんでください。

	よくできる	できる	あまりできない	できない
① 朝ひとりで起きる	24.0	33.0	37.2	5.8
② ひとりで服を着たり，ぬいだりする	67.0	31.7	1.3	−
③ 毎朝ひとりで洗顔や歯みがきをする	42.7	41.2	13.7	2.4
④ ねる時刻になったらひとりで寝る	28.2	34.8	25.9	11.1
⑤ 行儀正しく食事をする	10.5	53.6	33.0	2.9
⑥ 交通ルールを守る	26.7	64.1	9.2	−
⑦ 公共のものを大切にする	23.7	66.8	9.5	−
⑧ 日常生活で正しくあいさつをする	18.2	60.9	20.1	0.8
⑨ きまりや約束を守る	14.2	65.2	19.3	1.3
⑩ 身のまわりの物を整理・整とんする	6.1	37.7	49.6	6.6
⑪ たずねられたことや相手の話の内容を受けて話す	21.9	64.1	12.9	1.1
⑫ バスなどで空席がなければ立っている（座りたいといってさわがない）	35.9	57.5	6.1	0.5
⑬ 年下の子や弟・妹のめんどうをみる	26.4	56.2	16.4	1.0

質　問　2　次にあげる①～⑬について，お子さんを育てる上であなたが特に気をつけてしつけをしている場合，1.「はい」，あまり気をつけていなければ，2.「いいえ」を○でかこんでください。

	はい	いいえ
① 朝ひとりで起きる	59.4	40.6
② ひとりで服を着たり，ぬいだりする	74.7	25.3
③ 毎朝ひとりで洗顔や歯みがきをする	76.5	23.5
④ ねる時刻になったらひとりで寝る	63.1	36.9
⑤ 行儀正しく食事をする	88.1	11.9
⑥ 交通ルールを守る	94.5	5.5
⑦ 公共のものを大切にする	88.7	11.3
⑧ 日常生活で正しくあいさつをする	90.2	9.8
⑨ きまりや約束を守る	93.7	6.3
⑩ 身のまわりの物を整理・整とんする	85.2	14.8
⑪ たずねられたことや相手の話の内容を受けて話す	77.0	23.0
⑫ バスなどで空席がなければ立っている（座りたいといってさわがない）	67.0	33.0
⑬ 年下の子や弟・妹のめんどうをみる	78.1	21.9

質　問　3　〔お父さん，お母さん以外の方が記入されていましたら，ここは記入しないでください〕
次の①～⑬について，あなたの御主人（または奥さん）がお子さんを育てる上で，特に注意していることがあれば，1.「はい」，そうでなければ，2.「いいえ」を○でかこんでください。

	はい	いいえ
① 朝ひとりで起きる	40.9	57.3
② ひとりで服を着たり，ぬいだりする	53.6	44.6
③ 毎朝ひとりで洗顔や歯みがきをする	56.2	42.0
④ ねる時刻になったらひとりで寝る	54.1	44.1
⑤ 行儀正しく食事をする	77.0	21.1
⑥ 交通ルールを守る	81.8	16.4
⑦ 公共のものを大切にする	74.4	23.8
⑧ 日常生活で正しくあいさつをする	78.4	19.8
⑨ きまりや約束を守る	84.2	14.0
⑩ 身のまわりの物を整理・整とんする	70.2	28.0
⑪ たずねられたことや相手の話の内容を受けて話す	62.0	36.2
⑫ バスなどで空席がなければ立っている（座りたいといってさわがない）	52.8	45.4
⑬ 年下の子や弟・妹のめんどうをみる	66.8	31.4

質　問　4　子どものしつけについて，あなたの家ではだれが，どのようにかかわっていますか。
１～３のうちあてはまる番号を○でかこんでください。

	いつもしつけにかかわっている	時々しつけにかかわっている	しつけにはとくにかかわっていない
① 母　親	87.3	12.4	0.3
② 父　親	18.5	70.4	9.5
③ 祖父・祖母	21.1	40.4	9.0

〔お父さん，お母さん以外の方が記入されていましたら質問５～質問９は記入しないで下さい。〕

質　問　5　お子さんにとって，あなたは次のうちどれにあてはまりますか。

1. きびしい親である	6.6
2. どちらかといえば，きびしい親である	49.1
3. どちらかといえば，甘い親である	20.8
4. 甘い親である	1.0
5. どちらともいえない	22.2

質　問　6　御主人を父親（または奥さんを母親）としてみると，次のうちどれにあてはまりますか。

1.　きびしい親である	6.6
2.　どちらかといえば，きびしい親である	29.8
3.　どちらかといえば，甘い親である	35.6
4.　甘い親である	6.3
5.　どちらともいえない	20.1

質　問　7　育児やしつけに悩んだ時，あなたはだれに相談することが多いですか。

夫（妻）	母	しゅうと	近所の人	友　達	教育相談のある施設	医　師	幼稚園・学校の先生	その他
69.7	6.6	5.0	1.6	12.9	0.3	−	0.5	3.4

質　問　8　育児やしつけのことで相談をもちかけると，あなたの御主人（または奥さん）はどうすることが多いですか。

1.　いつも相談にのってくれる	60.9
2.　時々相談にのってくれる	33.2
3.　相談にのってくれない	4.2

質　問　9　しつけに関して夫婦間で意見がくいちがうことがありませんか。

1.　くいちがうことが多い	4.5
2.　くいちがうことが時々ある	50.9
3.　くいちがうことが少ない	41.2
4.　くいちがうことが全くない	1.8

9－1　質問9で1か2と答えた方だけ答えてください。
意見がくいちがうのは次のうちどれが一番多いですか。

1.　母親（または父親）の子どもに対する叱り方や甘やかしについて	60.1
2.　母親にまかせすぎることについて	14.3
3.　子どもの育児やしつけの方針について	25.1
4.　その他	0.5

質　問　10　お子さんをしつける時，あなたは次のうちどれが一番大事だと思いますか。

1.　よくいってきかせる	22.7
2.　いってもきかない時はたたいたりする	12.7
3.　たたいたりする	0.2
4.　親が手本を示す	7.9
5.　親が手本を示しながら子どもに一緒にさせる	56.5

質　問　11　ほめるのと叱るのとでは，お子さんに対してどちらの方がききめがあると思いますか。

1.　どちらかといえば，ほめる方がききめがある	92.3
2.　どちらかといえば叱る方がききめがある	7.7

質　問　12　お子さんをしかる時，あなたは次の①～⑥のしかり方をしたことがありますか。それぞれについて，1～3のうちあてはまる番号を○でかこんでください。

	よくある	時々ある	ない
①　兄弟姉妹やよその子どもとくらべて叱る	5.5	64.4	30.1
②　自分の子どもの頃をひきあいに出して叱る	1.1	24.8	74.1
③　子どもが悪いことをしたことに気づかせてから叱る	48.5	42.0	9.5
④　「他の人に笑われるよ」といって叱る	6.3	49.6	44.1
⑤　親の恥だといって叱る	1.1	14.5	84.4
⑥　その時の気分によって叱る	4.5	56.2	38.3

質　問　13　体罰を与えることはお子さんのしつけ上必要なことだと思いますか。
次の中からあなたの考えにもっとも近いものを選んでください。

1.　体罰は絶対与えるべきではない	11.6
2.　体罰の必要な時は与えてもよい	86.0
3.　しつけとして体罰を与えるのは当然である	2.4

質　問　14　よその人からお子さんが親切にされた時，お子さんがその場でお礼のことばを言っていると思いますか。

1.　いつも言っていると思う	12.1
2.　ほとんどの場合言っていると思う	40.4
3.　時々言っていると思う	36.4
4.　言っていない時の方が多いと思う	11.1
5.　全然言っていないと思う	−

質　問　15　来客がいる所にお子さんが入ってきて，お菓子を手でつまみとろうとした時あなたはどうしますか。次の中からもっとも近いものを選んでください。

1.　「行儀が悪い子だね」と注意する	19.3
2.　「そんなことをすると人に笑われますよ」と注意する	3.7
3.　「みっともないから今度からはしないでね」と注意する	4.7
4.　「ちょうだいをしてからもらうんですよ」と教える	68.3
5.　何も言わずに目くばせしたり態度で注意を示す	2.9
6.　とくに注意はしない	1.1

質　問　16　食堂で食事をしていた時，よその子どもが走まわったりしてひどくさわいでいた時，あなたはどうしますか。次の中からもっとも近いものを選んでください。

1.　その場ですぐ注意する	33.3
2.　その子の親に話をして注意してもらう	3.4
3.　その子にどうしてそんなことをするのか理由をきいてから注意する	15.8
4.　みてみぬふりをする	47.5

質　問　17　お子さんが服を着ようとボタンをかけている途中で，うまくできなくてあなたの所に来ました。そんな時あなたはどうしますか。（お子さんが小学生であれば幼児の頃のことを思い出して答えてください。）

1.　最後までひとりでやり通すように励ます	12.1
2.　やり方などの手本を示して自分ひとりでするように努力させる	59.9
3.　途中までがんばってやったのだからと考えて手伝ってやる	24.6
4.　親がしてあげる	3.4

質　問　18　お子さんが，かわいがっていたペット（小鳥・犬・猫など）が死んでしまって悲しんでいるような時，あなたはどうしますか。

1.　死んでしまっては仕方がないと思い，とくに何もせずに片付ける	2.1
2.　子どもと一緒になって，ていねいにほうむってやる	57.5
3.　またかってやるからと言って慰める	2.9
4.　生きものにはいのちがあることなどを話してきかせる	37.5

質　問　19　よその人からお子さんが親切にされたのに，お子さんがその場でお礼のことばを言わなかった時，あなたはどうすることが多いですか。

1.　子どもに，その時お礼のことば（「ありがとう」など）を言わせていることが多い	92.9
2.　親がお礼を言って子どもには特に言わせないでそのままにしておくことが多い	1.0
3.　その時はそのままにしておいて，あとで教えることが多い	6.1
4.　特に子どもに注意しない方が多い	−

質　問　20　子どもに対する世話のしかたについて，あなたは次のどれにあてはまりますか。

1.　子どもの世話をしすぎている方であると思う	35.1
2.　世話のしかたは適切だと思う	30.9
3.　世話のしかたが足りない方だと思う	34.0

質　問　21　あなたは，お子さんがどのような子どもになって欲しいと願ってお子さんを育てていますか。次のA，Bの各グループから，もっとも大切だと思っているものを一つずつ選んでください

（Aグループ）

1.　がんばって勉強をする子ども	3.7
2.　やさしくて思いやりのある子ども	57.8
3.　身体が丈夫で元気な子ども	38.5

（Bグループ）

1.　責任感の強い子ども	5.8
2.　自分からすすんでものごとに取り組む子ども	17.9
3.　根気強い子ども	11.6
4.　他人と力を合わせてものごとに取り組む子ども	5.5
5.　他人の気持ちや立場を大事にする子ども	23.0
6.　善悪の判断がきちんとできる子ども	35.1
7.　奉仕の心を持った子ども	1.1

質　問　22　あなたは，お子さんをしつける上で今困っていることがありませんか。

1.　困っていることはない	60.2
2.　困っていることがある	39.8

22－1　困っていることのある人は，次の理由の中から二つ選んで，もっとも困っているものには◎，次のものには○をつけてください。

1.　何をしつけていいのかわからないので	6.7
2.　しつけのしかたがわからないので	18.1
3.　夫（妻）がしつけに協力してくれないので	4.8
4.　しつけについて夫（妻）と意見があわないので	5.6
5.　〃　祖父・祖母と意見があわないので	10.6
6.　子どもの気持ちがわからないので	19.3
7.　子どものしつけにあたる時間が少ないので	26.7
8.　その他	8.2

質　問　23　あなたは日頃の生活の中で，次の①～⑥についてどのように感じていますか。1～4のうちあてはまる番号を○でかこんでください。

	よくある	時々ある	ほとんどない	全くない
①　生活の中に時間的なゆとりを感じている	10.8	44.9	38.5	5.5
②　ささいなことでもイライラしてしまう	9.2	69.9	19.5	1.1
③　育児によって自分の充実感が感じられる	11.3	56.7	28.8	2.9
④　育児のために苦労ばかりしていると感じている	2.4	23.2	51.7	22.4
⑤　子どもをうまく育てていると思っている	7.9	58.6	29.3	3.9
⑥　子どものことでどうしたらよいかわからなくなることがある	5.3	49.1	38.2	7.1

質　問　24　あなたは日頃，あなた以外の人との関係についてどう思っていますか。①～⑥について，1～5のうちからあてはまる番号を○でかこんでください。（①～⑥について，あてはまる方がいない場合には，5.「該当なし」に○をつけてください。）

	うまくいっている	うまくいっているほうである	うまくいっていないほうである	うまくいっていない	該当なし
①　自分の親	57.2	37.5	1.3	0.3	3.7
②　夫（または妻）の親	29.8	58.6	5.3	1.8	4.5
③　親類の人たち	28.2	67.6	2.9	－	1.3
④　近所の人たち	22.4	71.0	3.2	－	3.4
⑤　職場・仕事の関係者	23.7	49.1	1.0	－	25.9
⑥　友　人	45.9	52.5	1.1	－	0.5

質　問　25　子どもを育てていく上での家庭の役割を考える時，あなたは次の二つの考えのうちどちらに近い考えをお持ちですか。

1.　家庭は，生活の土台である食事・睡眠・排泄・衣服の着脱・清潔などの世話を通して子どもを育てる責任がある	56.2
2.　家庭は，子どもが自立することができるようにするために社会の習慣や約束ごと，ことばなどを子どもに教える責任がある	43.5

昭和62年3月20日　印刷
昭和62年3月25日　発行

発行所　山形県教育センター
〒994　天童市大字山元字犬倉津2515
TEL　(0236)54-2155～9

印刷所　㈱大風印刷　天童営業所
〒994　天童市久野本4-16-2
TEL　(0236)54-5715